

第2章 まちづくりの現況

2-1 地域特性

本市は、福岡県の南部、筑紫平野の北部、佐賀県との県境に位置し、南東は久留米市、大刀洗町、西は佐賀県鳥栖市、基山町、北東は筑紫野市、筑前町にそれぞれ接している東西 6km、南北 12km に亘る区域です。

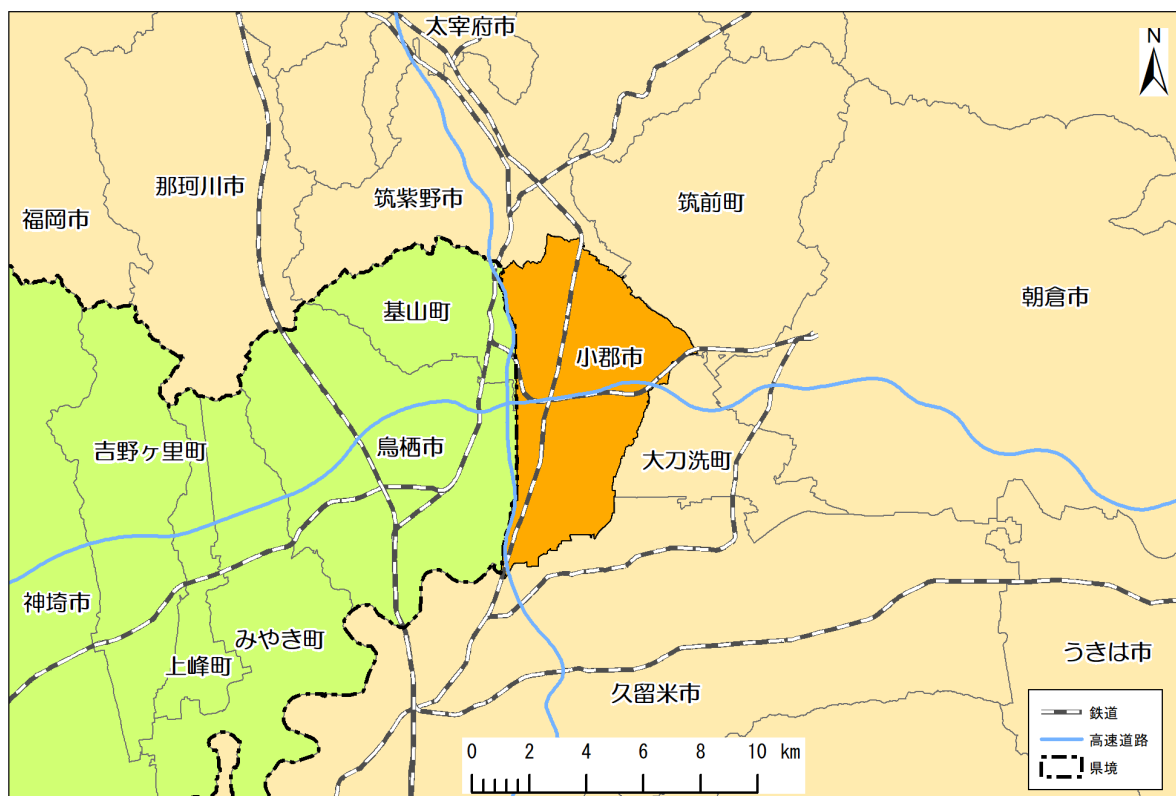
地勢は、中央部を南北に宝満川が流れ、その流域にはのどかな田園風景が広がっています。北東部にある花立山（約 131m）を除いて、区域の大部分がなだらかな丘陵地と標高 15m 以下の平地となっています。

交通網は、18 世紀には松崎が薩摩街道の宿場とされるなど、筑前と筑後に通じる交通の要衝として栄えました。現在においても、筑後小郡インターチェンジがあるほか、九州縦貫自動車道と大分自動車道が交差する鳥栖ジャンクションに隣接し、南北には西鉄天神大牟田線、東西に基山から分岐した甘木鉄道甘木線及び大分自動車道が走る交通の要衝となっています。

また、九州縦貫自動車道の新しいスマートインターチェンジが供用開始予定であり、周辺への企業誘致など、更なる地域の活性化が期待されています。

そのような交通の利便性の高さに加え、福岡都市圏や久留米市の影響を受け、近年はベッドタウンとして発展し、特に北部は福岡市を中心とした日常生活圏拡大の影響を受けた宅地開発の活発な進行により、住宅都市としての都市構造を示しています。

■小郡市の位置



出典：国土数値情報

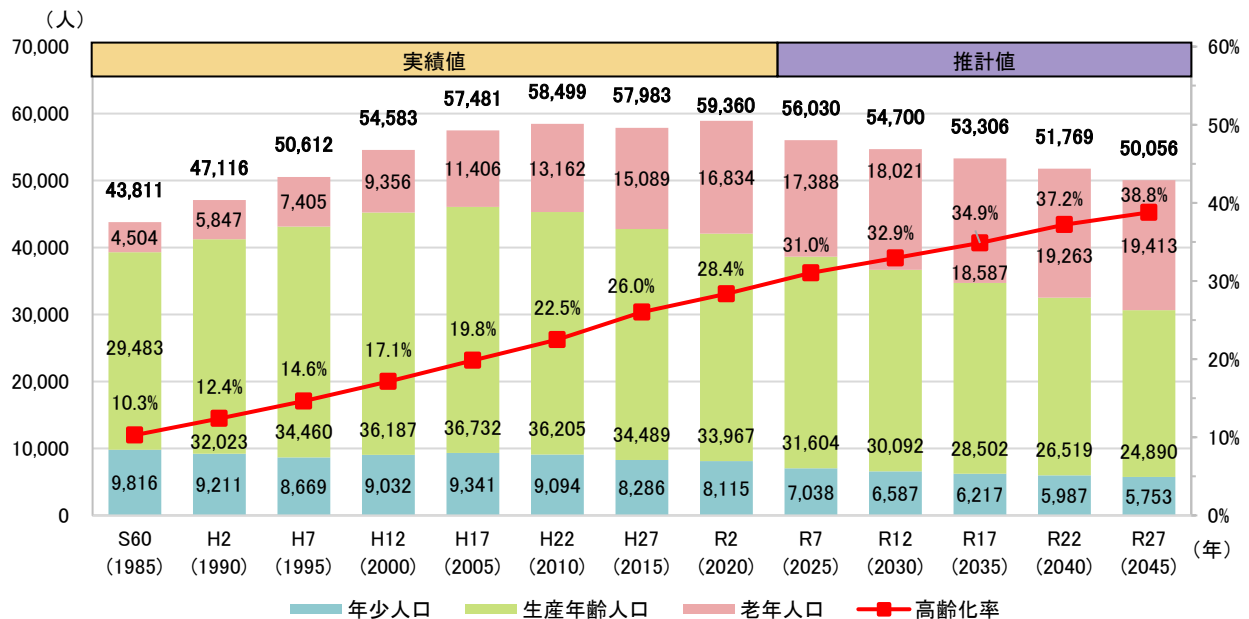
2-2 人口・世帯数

(1) 人口の推移と将来見通し

本市の総人口は 2010（平成 22）年まで増加していて、2015（平成 27）年にやや減少しています。年齢 3 区分別人口をみると、近年、年少人口は減少傾向にあり、生産年齢人口は 2010（平成 22）年以降減少傾向に転じているなか、老年人口は一貫して増加傾向にあります。高齢化率は年々増加していて、2020（令和 2）年には 28.4%となっています。

2025（令和 7）年以降は、総人口は年々減少するものの、老年人口は増加していくことが予測されています。

■年齢階層別人口と高齢化率の推移



※年齢不詳を含まないため、年齢 3 区分別人口の合計と総人口は必ずしも一致しない。

出典：国勢調査（S60～R2）、国立社会保障・人口問題研究所（R7 以降）

(2) 地域別人口の推移

2021（令和 3）年の地域別人口をみると、三国地域が最も人口が多く、市全体の 40.0%を占めています。次いで、大原地域 22.8%、小郡地域 22.2%の順となっています。

地域別人口の推移をみると、小郡地域と三国地域は増加傾向にある一方、大原地域、立石地域は減少傾向にあります。宝城地域は、減少傾向にありましたが、過去 5 年では微増しています。

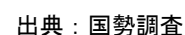
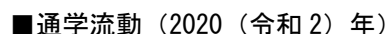
■地域別人口の推移

年	小郡地域	大原地域	三国地域	立石地域	宝城地域	合計
H3	11,891	14,249	10,584	4,839	6,470	48,033
H8	12,599	14,790	12,950	4,730	6,256	51,325
H13	12,527	14,810	17,733	4,554	6,084	55,708
H18	12,506	14,576	21,350	4,379	5,685	58,496
H23	12,693	13,951	23,274	4,014	5,327	59,259
H28	12,878	13,896	23,627	3,685	5,164	59,250
R3	13,209	13,578	23,848	3,495	5,422	59,552
人口比率（R3）	22.2%	22.8%	40.0%	5.9%	9.1%	100.0%

出典：住民基本台帳

本市の就業者については、3 割弱が市内で就業し、7 割強は市外に通勤しています。市外の通勤先は、福岡市、久留米市、鳥栖市の順、また、市外からの就業者は、久留米市、筑紫野市、鳥栖市の順となっています。

■通勤流動（2020（令和2）年）



サービス業の増加が著しく、運輸・通信業についても増加傾向にある一方、農業、卸売・小売業・飲食店や建設業については減少しつつあります。

出典：国勢調査

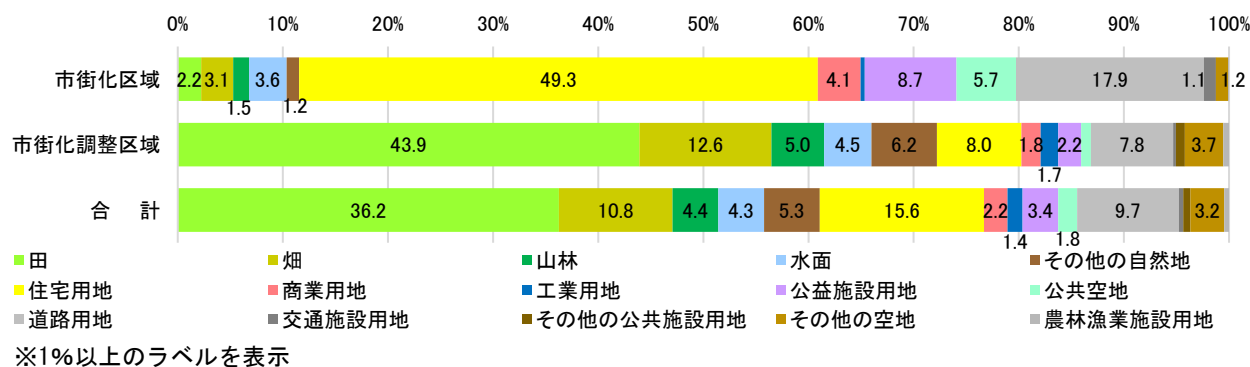
2-3 土地利用・開発の動向

(1) 土地利用の動向

土地利用状況は、市街化区域では、住宅用地が 49.3%と最も構成比率が高く、次いで道路用地 17.9%、公益施設用地 8.7%と続きます。市街化調整区域では、田畑の占める割合が半分以上を占めていますが、住宅用地も 8.0%と一定の割合を占めています。

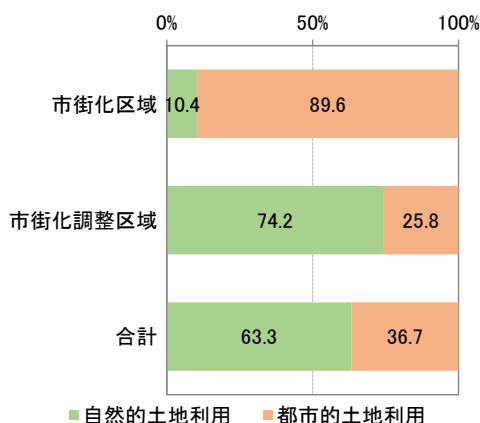
自然的土地利用及び都市的土地利用の比率を見ると、市街化調整区域の都市的土地利用が約 10 年で 2.0 ポイント増加し、市街化調整区域内での開発が進んでいることが読み取れます。

■土地利用別面積比率（2022（令和 4）年）

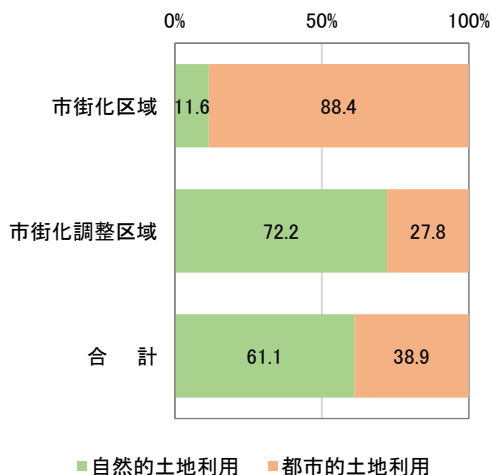


■自然的・都市的土地利用面積比率

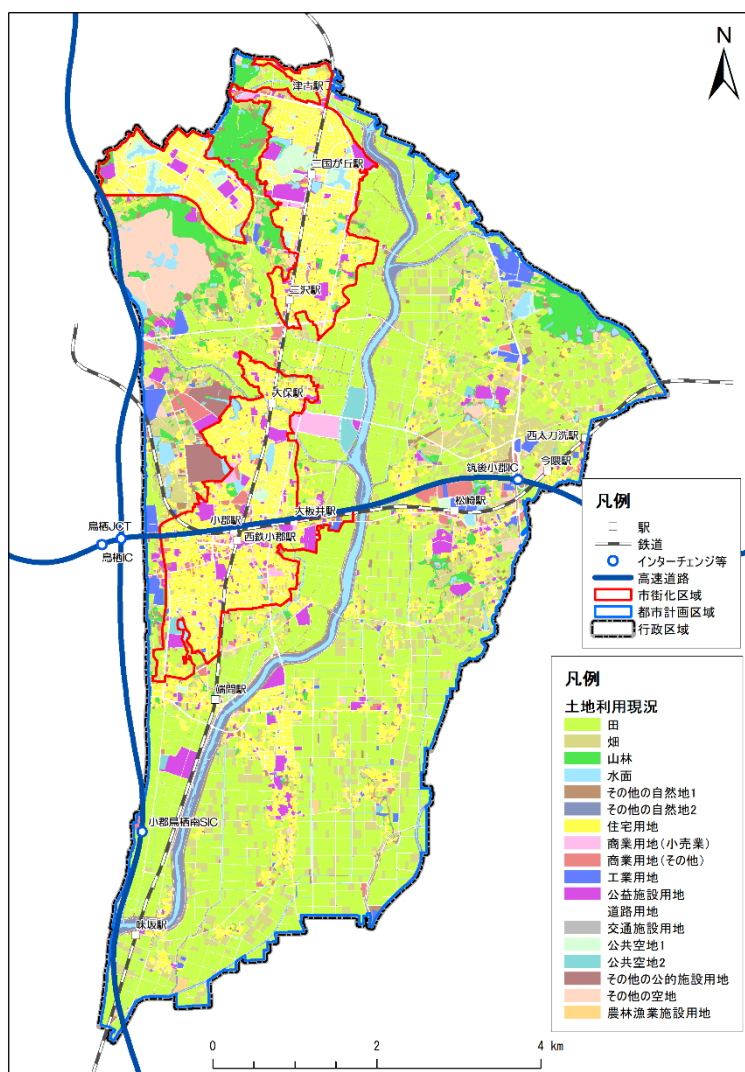
(2012（平成 24）年度)



(2022（令和 4）年度)



■土地利用現況図（2022（令和 4）年度）

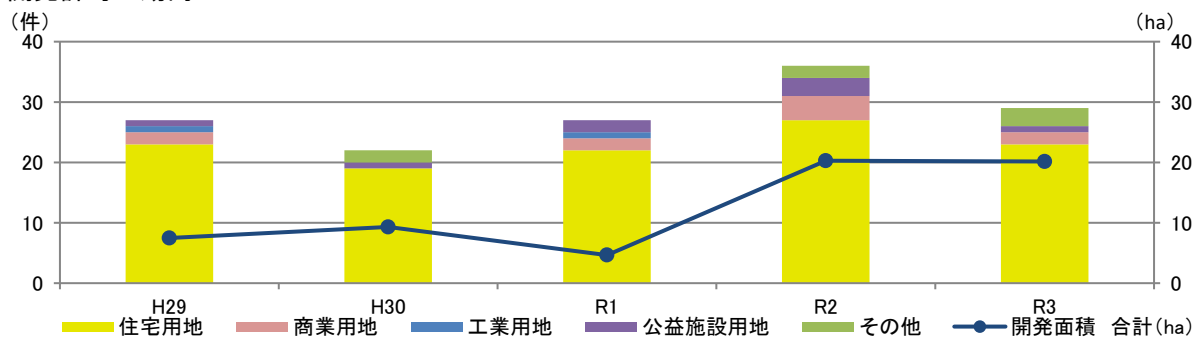


出典：R4 都市計画基礎調査

(2) 開発許可の動向

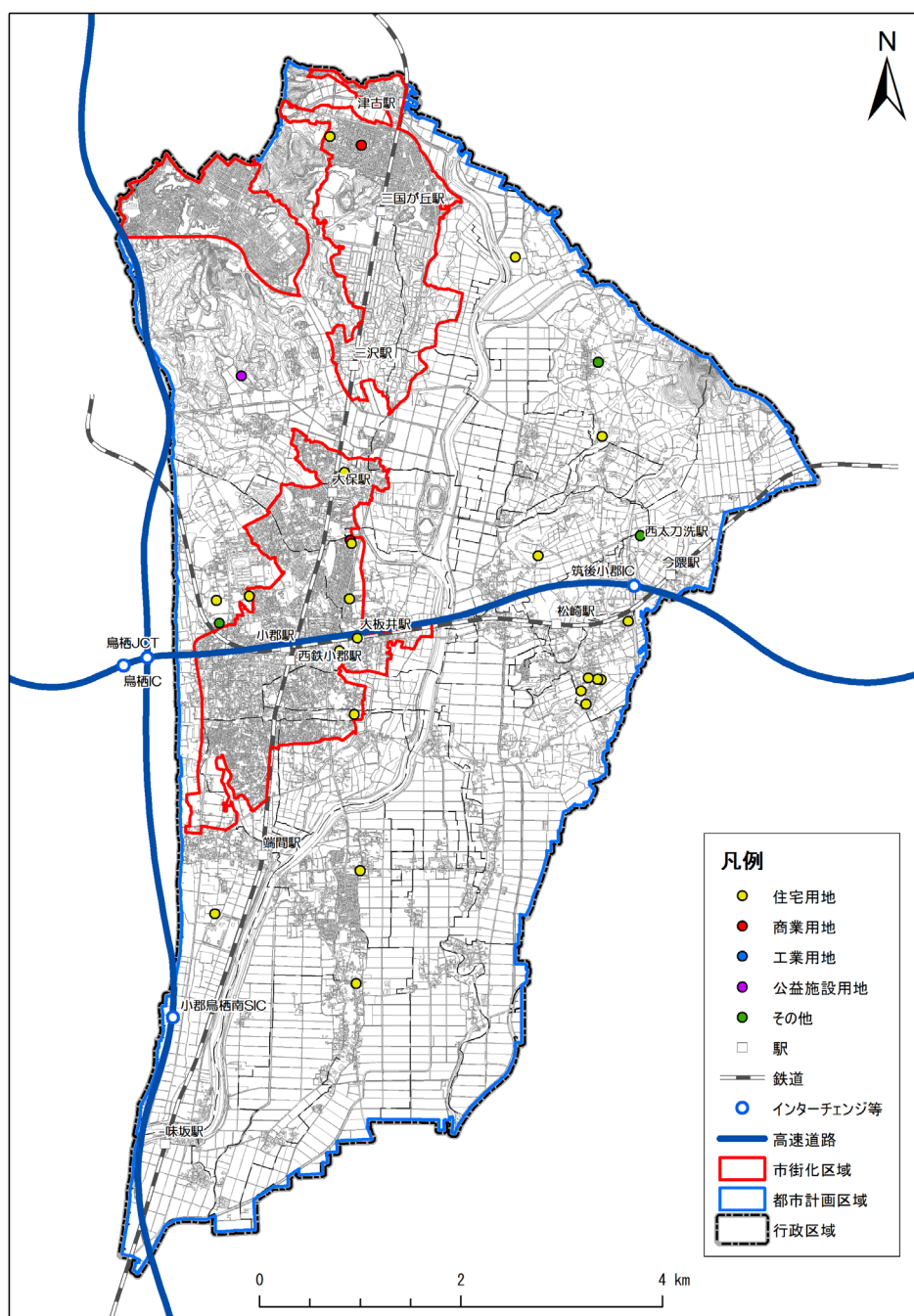
開発許可件数は、概ね 20～30 件前後で推移していて、住宅用地がほとんどを占めています。

■開発許可の動向



出典：R4 都市計画基礎調査

■開発許可位置図（平成 29～令和 3 年度）

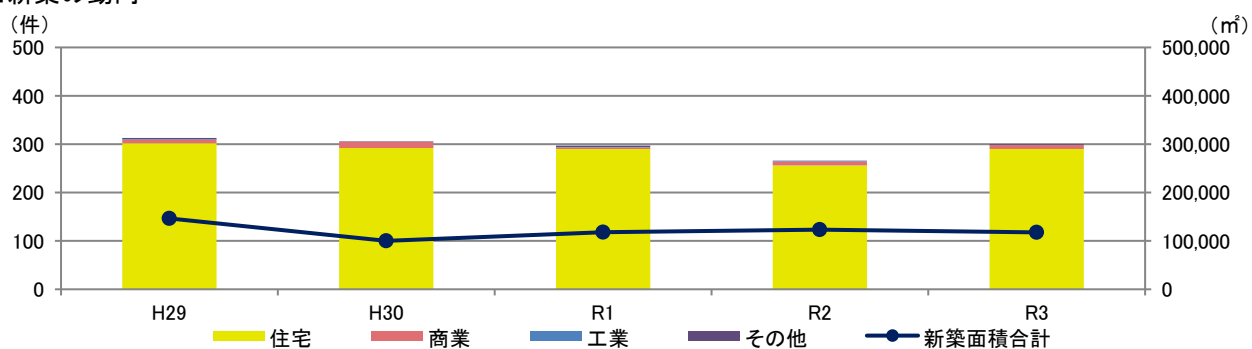


出典：R4 都市計画基礎調査

(3) 新築の動向

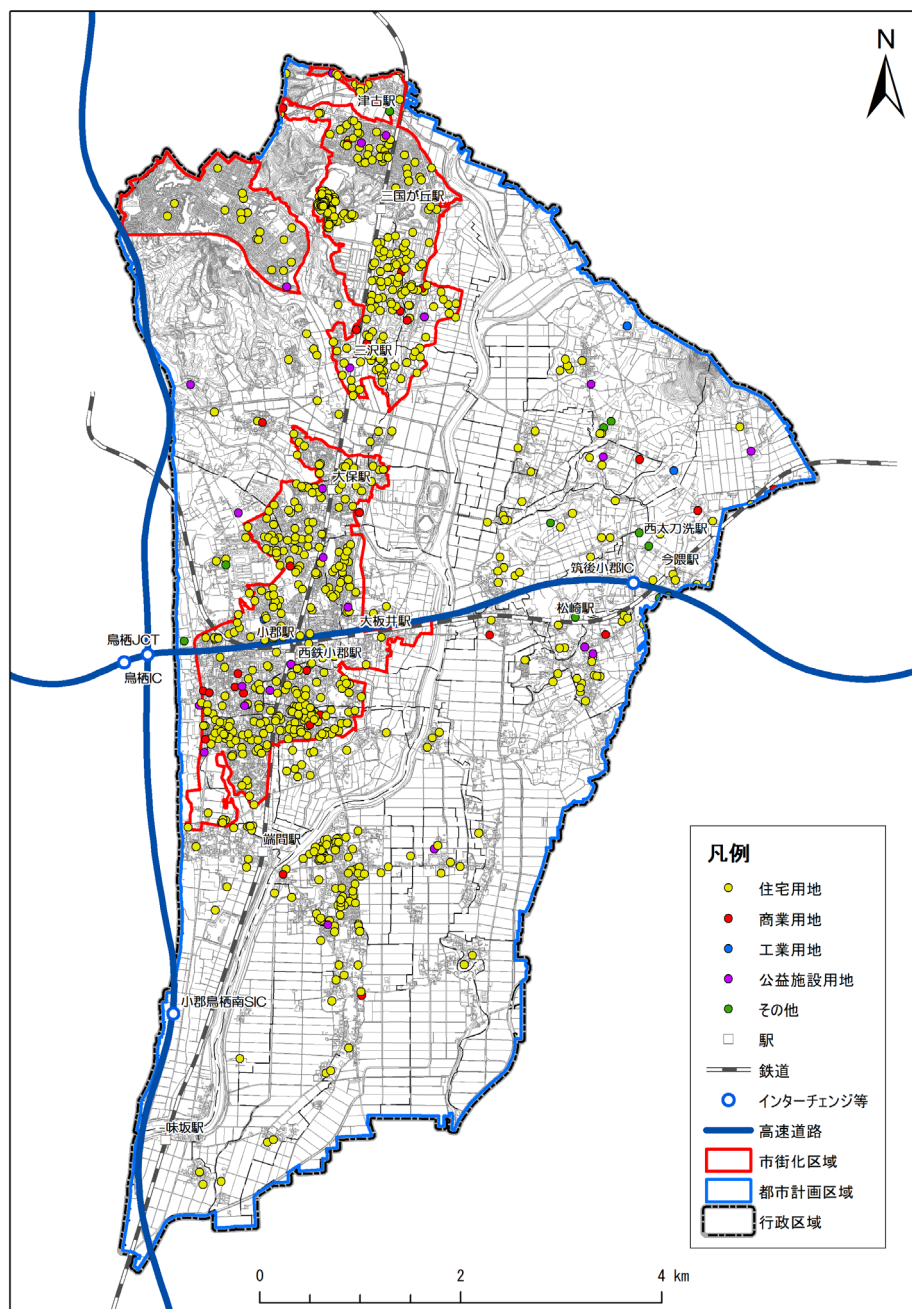
新築件数は、2017（平成 29）年以降、緩やかな減少傾向が続いていましたが、2021（令和 3）年に再び増加しています。また、新築件数のほとんどを住宅が占めています。

■新築の動向



出典：R4 都市計画基礎調査

■新築建物位置図（平成 29～令和 3 年度）



出典：R4 都市計画基礎調査

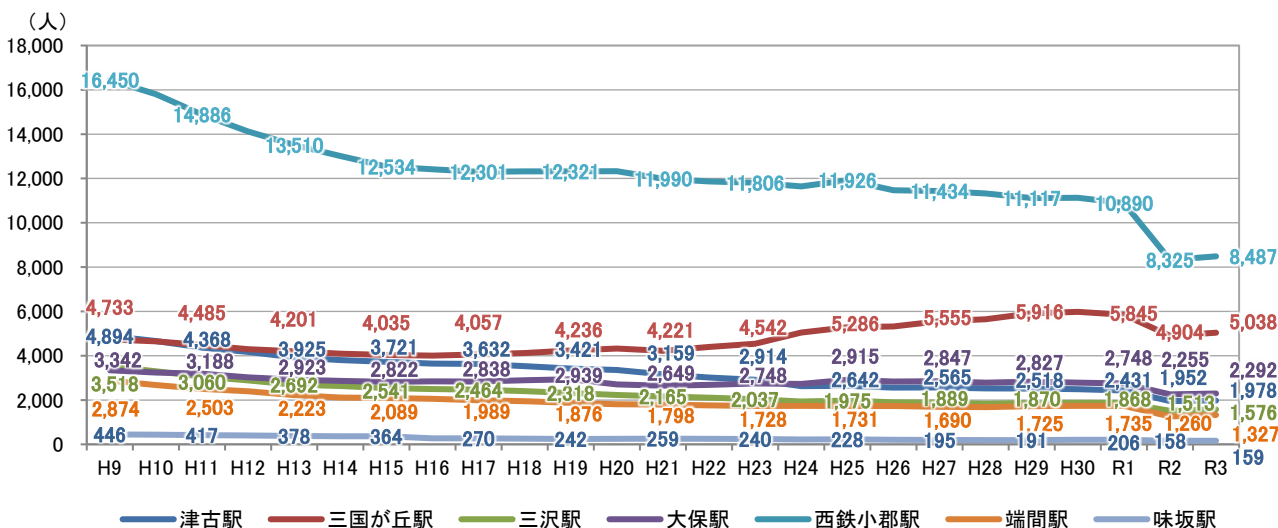
2-4 交通体系

(1) 鉄道

①乗降客数の推移（西鉄天神大牟田線）

西鉄天神大牟田線は、2019（令和元）年までは、西鉄三国が丘駅を除く全ての駅でやや減少傾向でしたが、2020（令和2）年には、新型コロナウイルス感染症の拡大が影響し、全ての駅の乗降客数は減少しています。2021（令和3）年の駅別の乗降客数は、西鉄小郡駅が1日当たり8,487人、次いで西鉄三国が丘駅が5,038人となっています。

■駅別1日当たり乗降客数の推移（西鉄天神大牟田線）

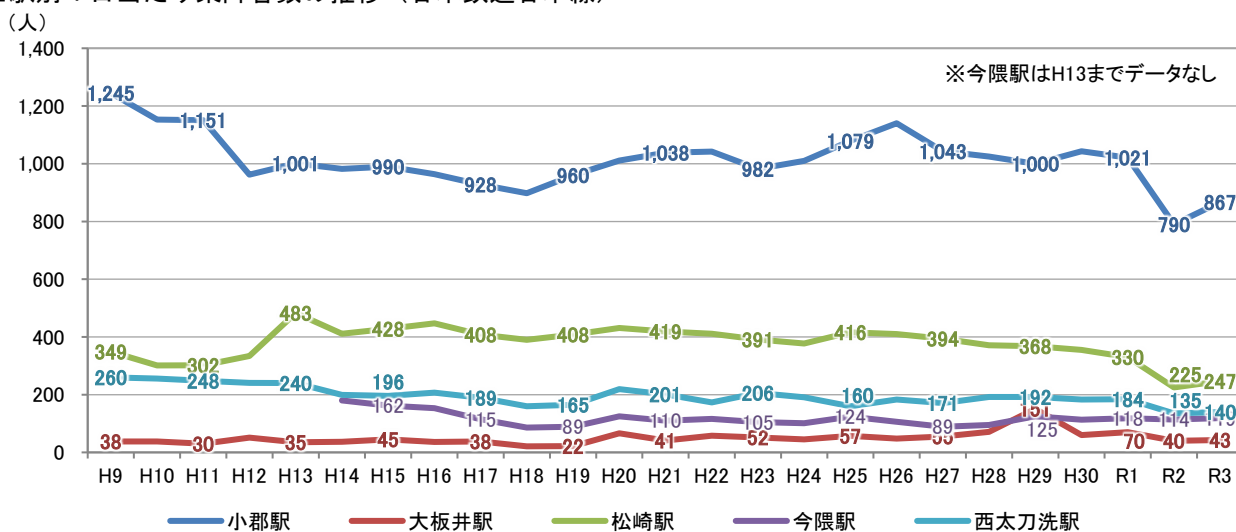


出典：庁内資料（H9～R2）、R4 都市計画基礎調査（R3）

②乗降客数の推移（甘木鉄道甘木線）

甘木鉄道甘木線は、2019（令和元）年までは、甘鉄小郡駅では、増減を繰り返しながら推移していた、その他の駅ではほぼ横ばいで推移していましたが、2020（令和2）年には、西鉄天神大牟田線と同様、全ての駅の乗降客数は減少しています。2021（令和3）年の駅別の乗降客数は、甘鉄小郡駅が1日当たり867人、次いで甘鉄松崎駅が247人となっています。

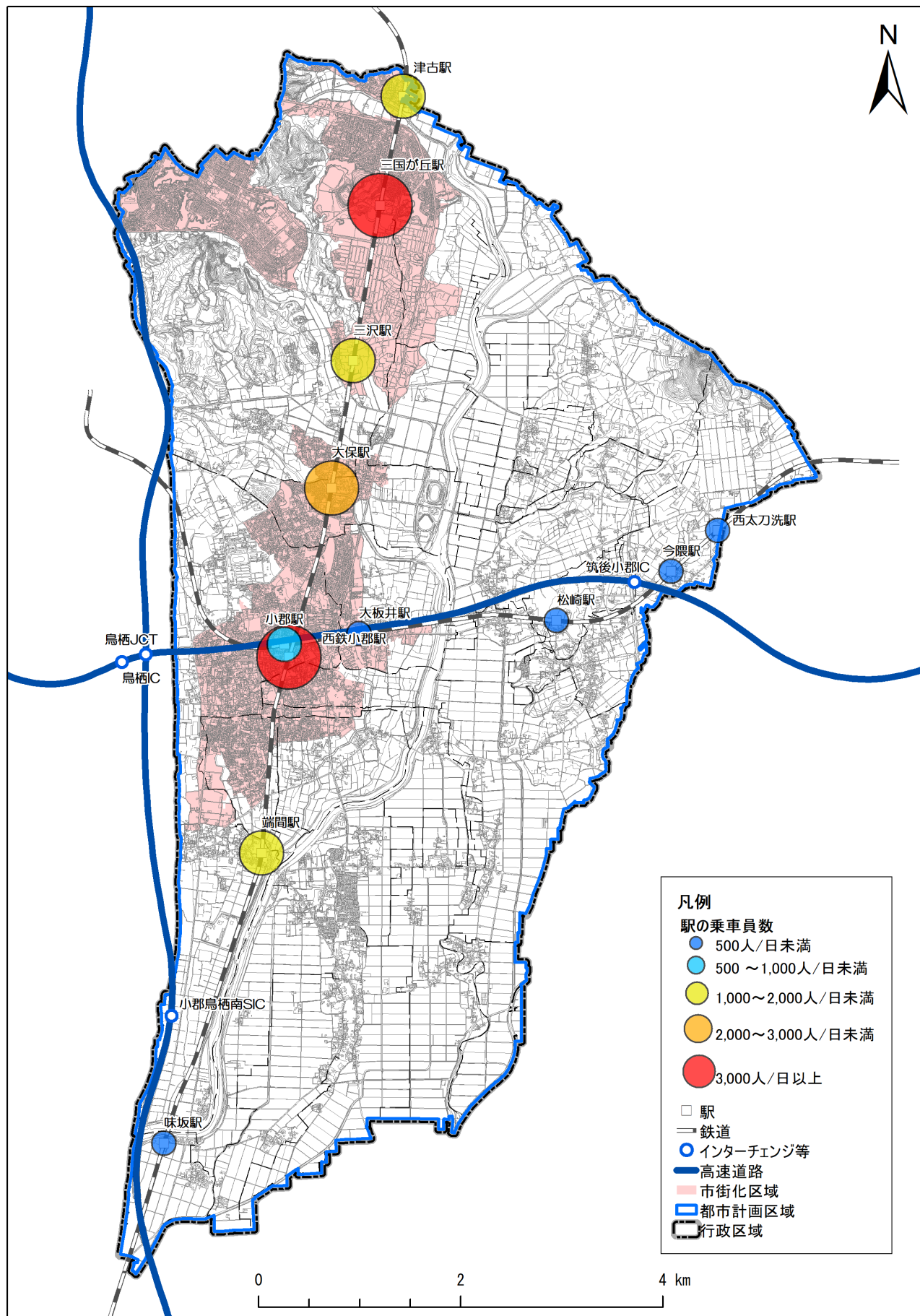
■駅別1日当たり乗降客数の推移（甘木鉄道甘木線）



※甘鉄今隈駅は平成14年12月開業

出典：庁内資料（H9～R2）、R4 都市計画基礎調査（R3）

■ 駅別の乗車員数



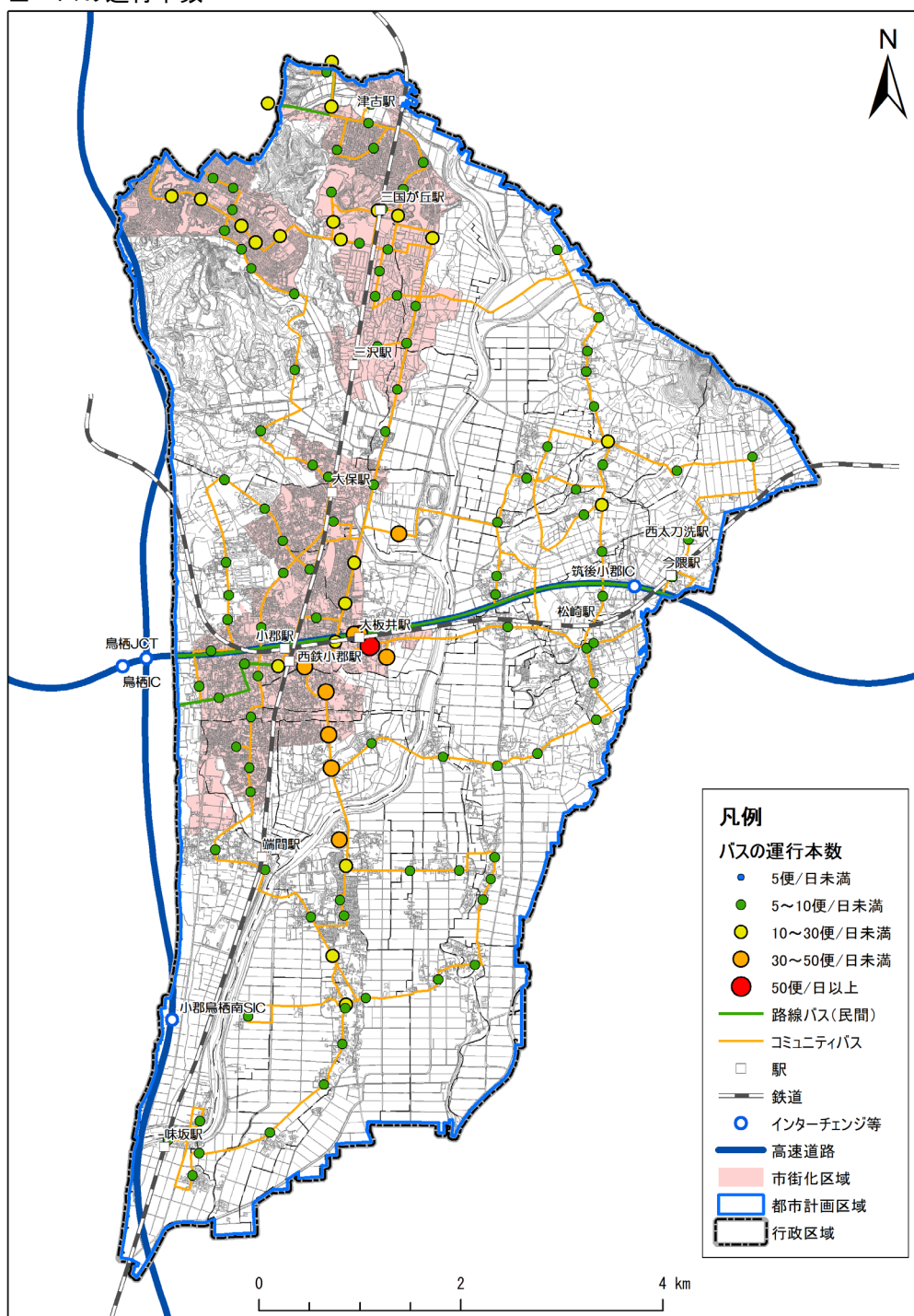
出典：R4 都市計画基礎調査

(2) バス交通

本市では、民営の交通事業者（西日本鉄道(株)）が運営する路線バスや、本市が運営するコミュニティバスが運行しているほか、市・協働のまちづくり協議会・地域住民の共働で自治会バスを運行しています。また、新たな交通サービスとして、予約制で自宅から指定の施設まで等の移動に利用できるデマンドタクシー（おごおり相乗りタクシー）の本格運行が始まっています。なお、コミュニティバス（立石ルート、御原・味坂ルート）は、2021（令和3）年10月から休止、2022（令和4）年10月に廃止しています。

デマンドタクシーの本格運行以前のコミュニティバスの状況について、バス停留所別の運行本数をみると、小郡駅周辺で1日30本以上停車するバス停が集中していて、西鉄小郡駅から東西方向よりも南北方向への運行の頻度が高くなっている状況が見られます。

■バスの運行本数



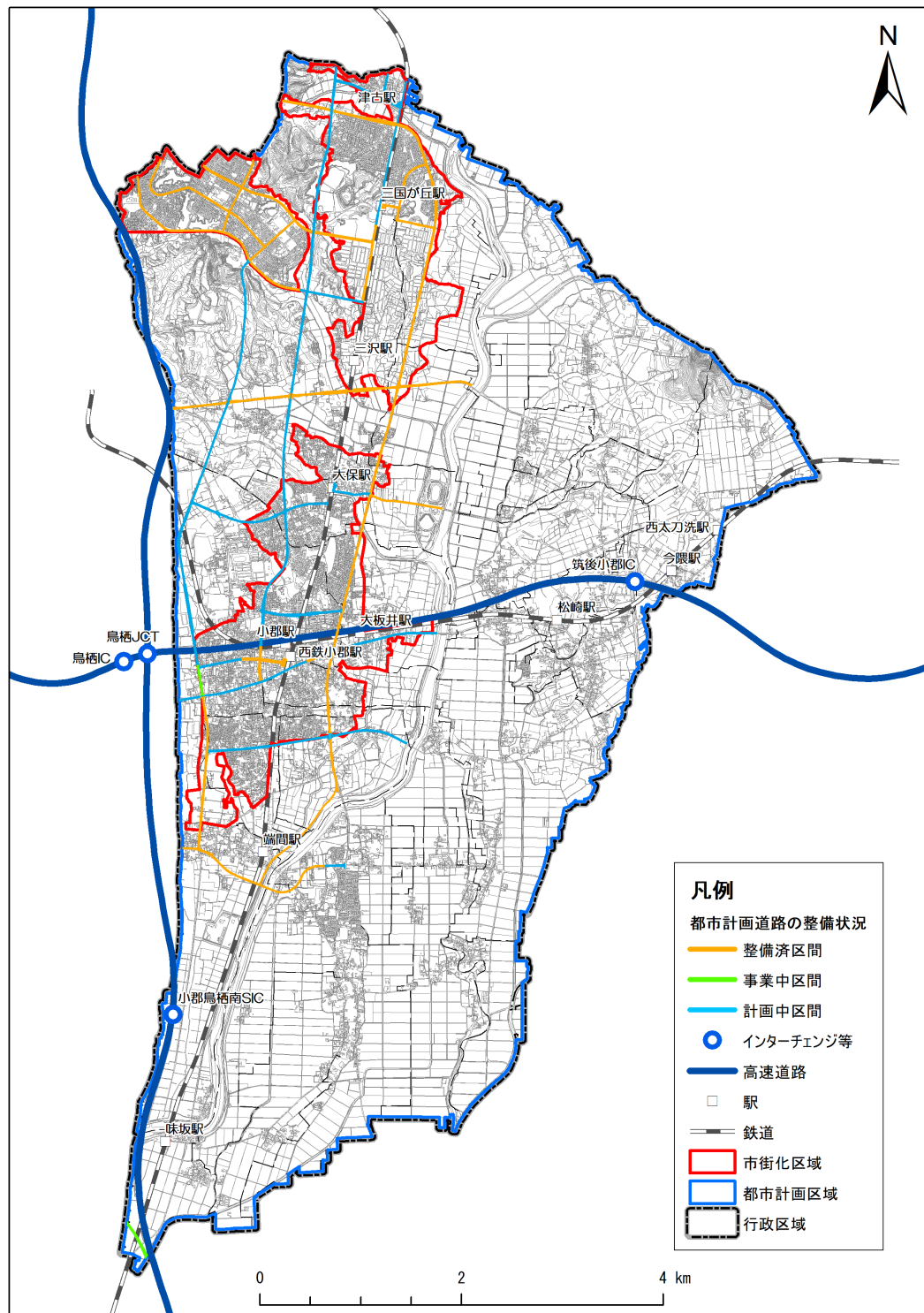
2-5 都市施設

(1) 都市計画道路

都市計画道路は、市街化区域内においては、北部の住宅団地では整備が進んでいますが、旧来からの市街地では、未整備の路線が多い状況です。一方、市街化調整区域では、事業中、または都市計画決定のみで未整備となっている道路が多い状況にあります。

また、福童地区において、九州縦貫自動車道の小郡鳥栖南スマートインターチェンジが供用開始予定となっています。

■都市計画道路の整備状況

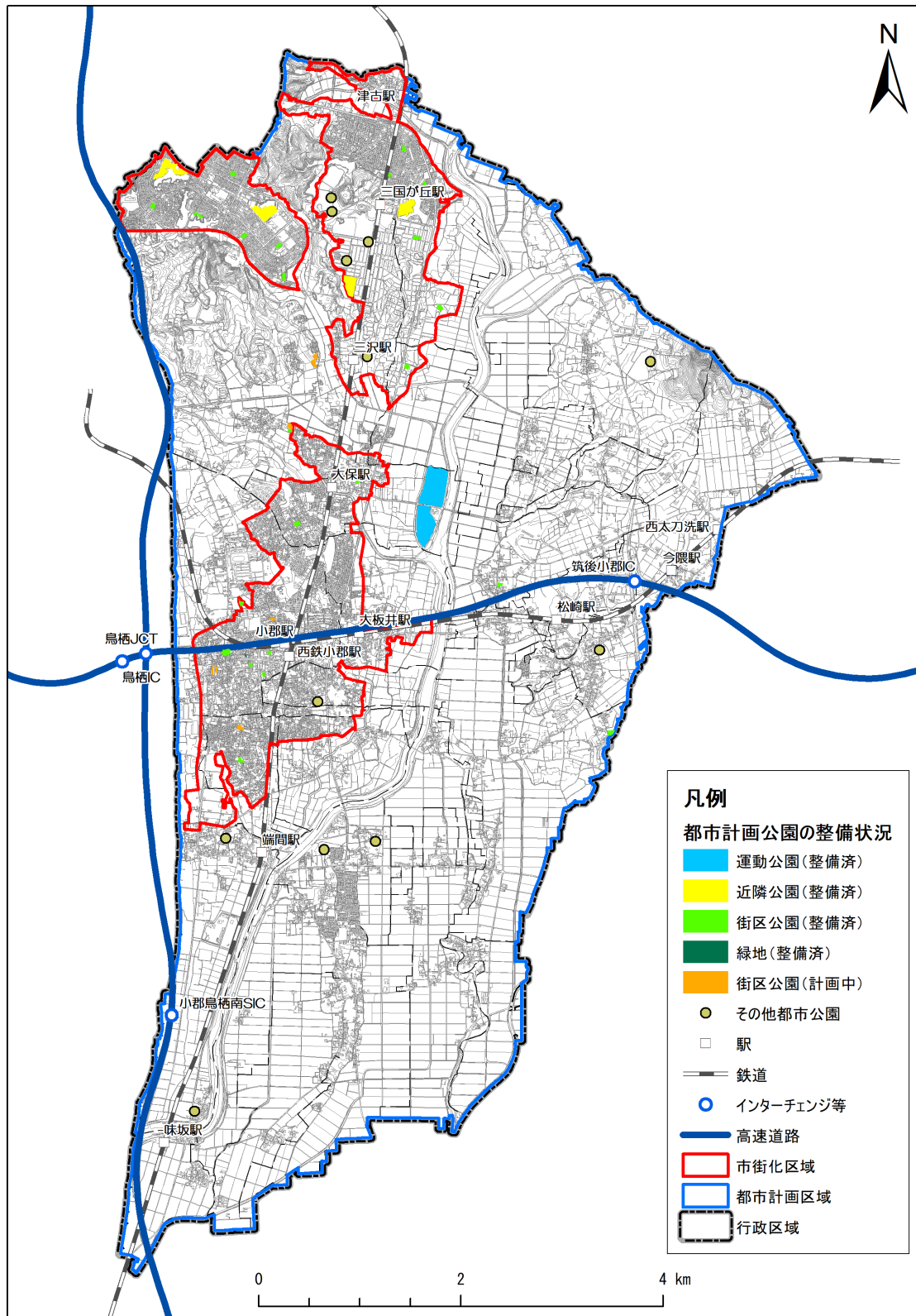


出典：R4 都市計画基礎調査

(2) 都市計画公園

本市の都市計画公園は、大原地域の東側の宝満川沿いに小郡運動公園、市北部の住宅団地内に4箇所の近隣公園が整備されているほか、街区公園が25箇所と緑地が1箇所整備されています。また、計画中の街区公園が5箇所あります。

■都市計画公園の整備状況



出典：R4 都市計画基礎調査

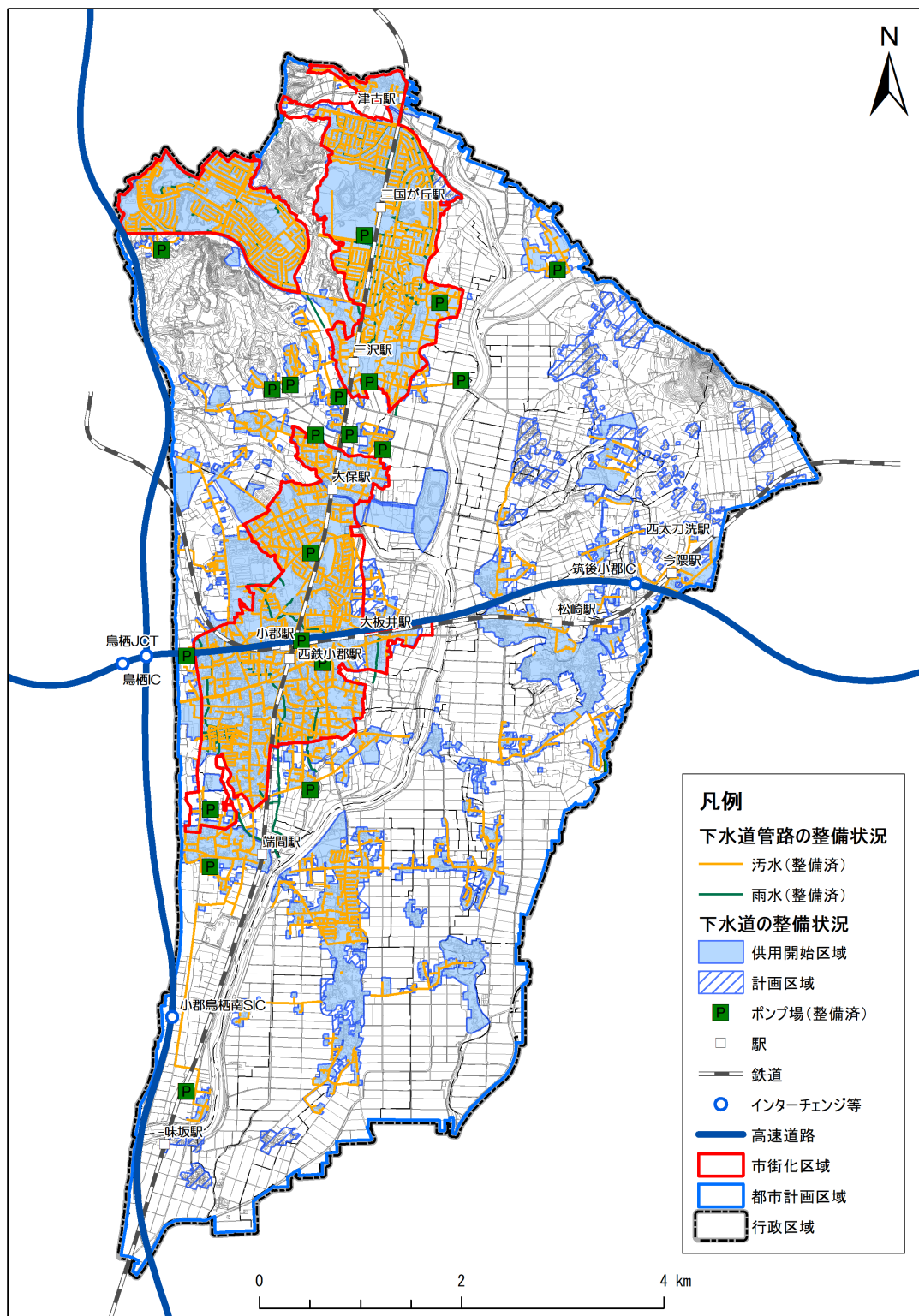
(3) 下水道

本市の下水道は、宝満川流域関連下水道、筑後川中流右岸流域関連下水道が整備中となっています。

宝満川流域関連下水道は、市北部を処理区域とし、認可区域面積は542ha、全体計画面積547.3haに対する割合は99.0%となっています。

筑後川中流右岸流域関連下水道は、小郡市中南部及び東部を処理区域とし、認可区域面積は661.5ha、全体計画面積1,186.5haに対する割合は、55.8%となっています。

■ 下水道の整備状況



出典：R4 都市計画基礎調査

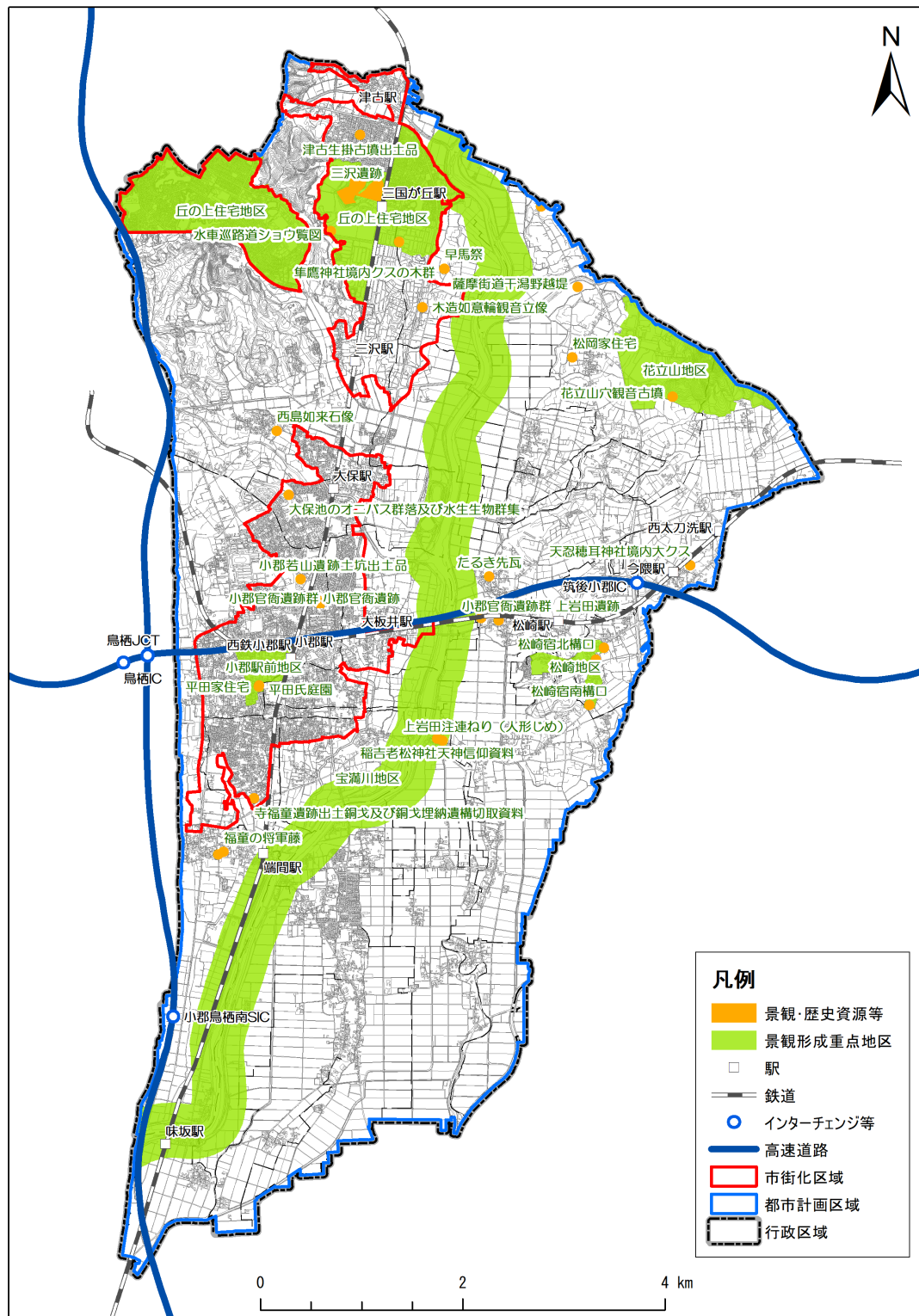
2-6 景観・環境資源

(1) 景観・歴史資源等

本市には、歴史的な価値のある遺跡や建造物、庭園などが各地に点在しています。

また、景観計画において、小郡駅前地区、丘の上住宅地区、松崎地区、宝満川地区、花立山地区については、本市の景観形成において重要な役割を有する「景観形成重点地区」として位置づけられています。

■景観・歴史資源等の位置図

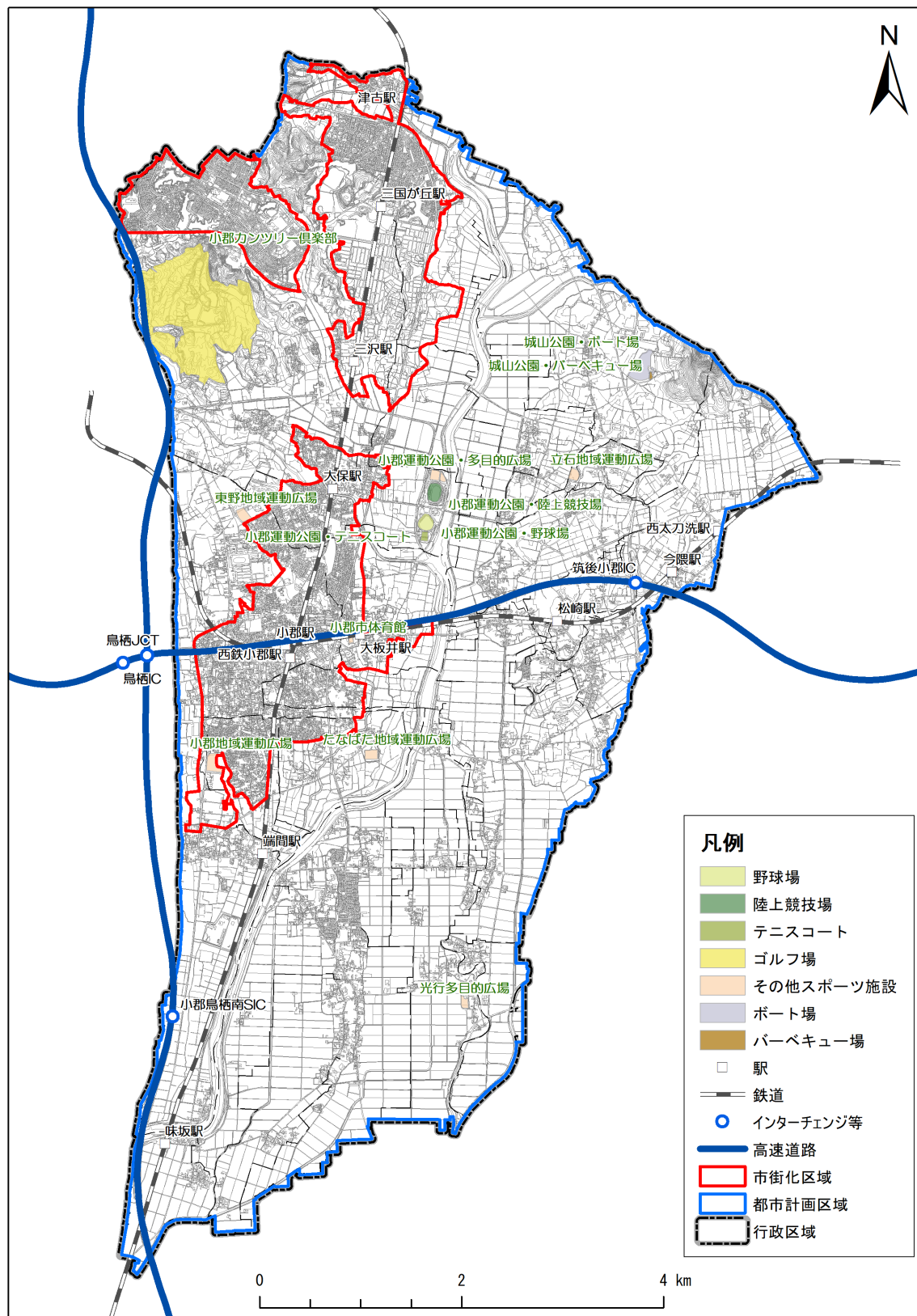


出典：R4 都市計画基礎調査

(2) レクリエーション施設

本市には、レクリエーション施設として、市街化調整区域にゴルフ場、小郡運動公園、城山公園のボート場・バーベキュー場、地域運動広場があるほか、市街化区域とその縁辺に小郡市体育館、地域運動広場等が整備されています。

■レクリエーション施設の位置図



出典：R4 都市計画基礎調査

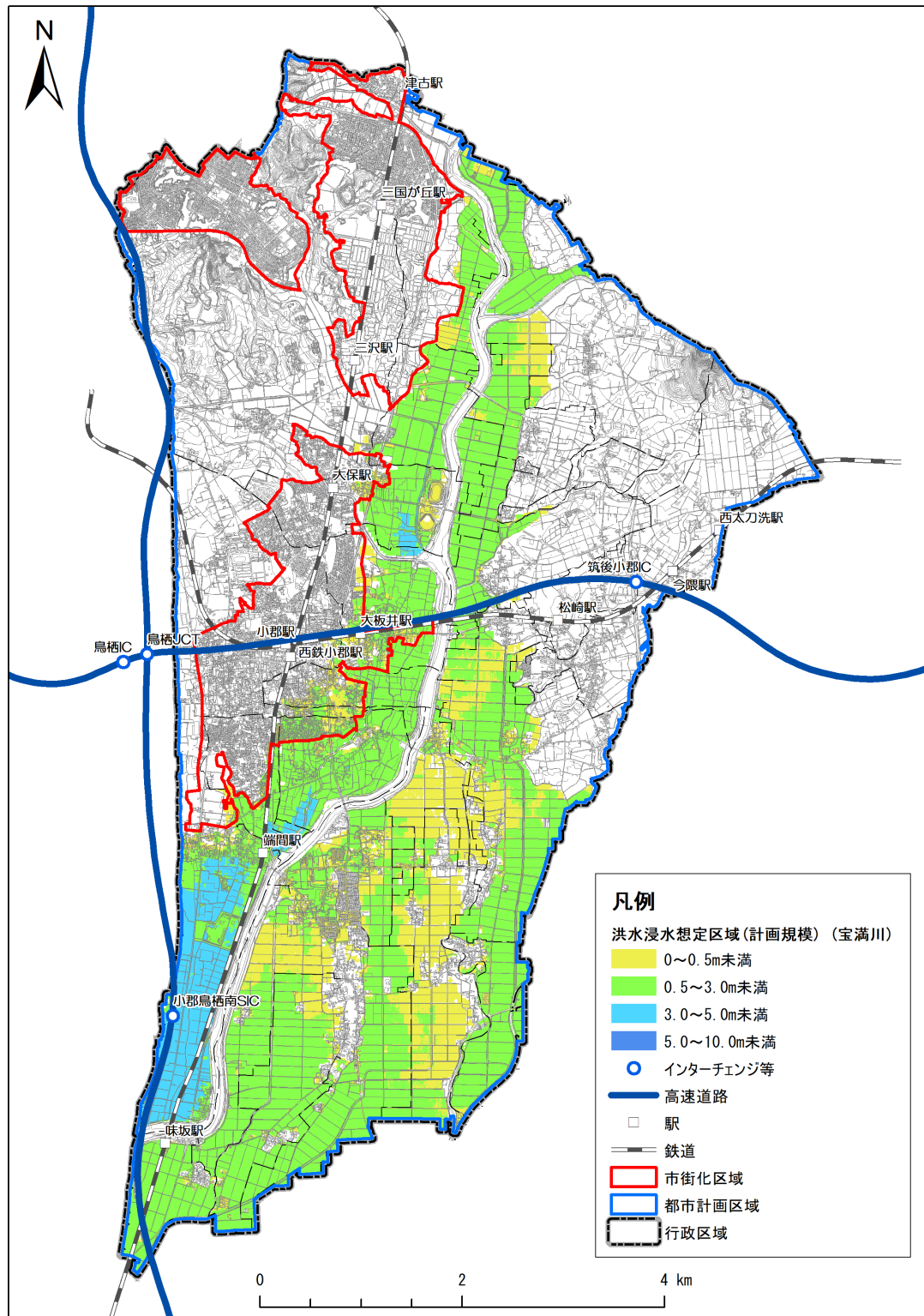
2-7 災害リスク

①洪水浸水想定区域（計画規模）

1) 対象河川：宝満川

洪水浸水想定区域（計画規模）は、本市を縦断する宝満川の周辺を中心に、南西側の地区ほど浸水深が大きくなっています。西鉄端間駅の南西側のエリアで、浸水深 3.0～5.0m が想定されています。

■洪水浸水想定区域（計画規模）

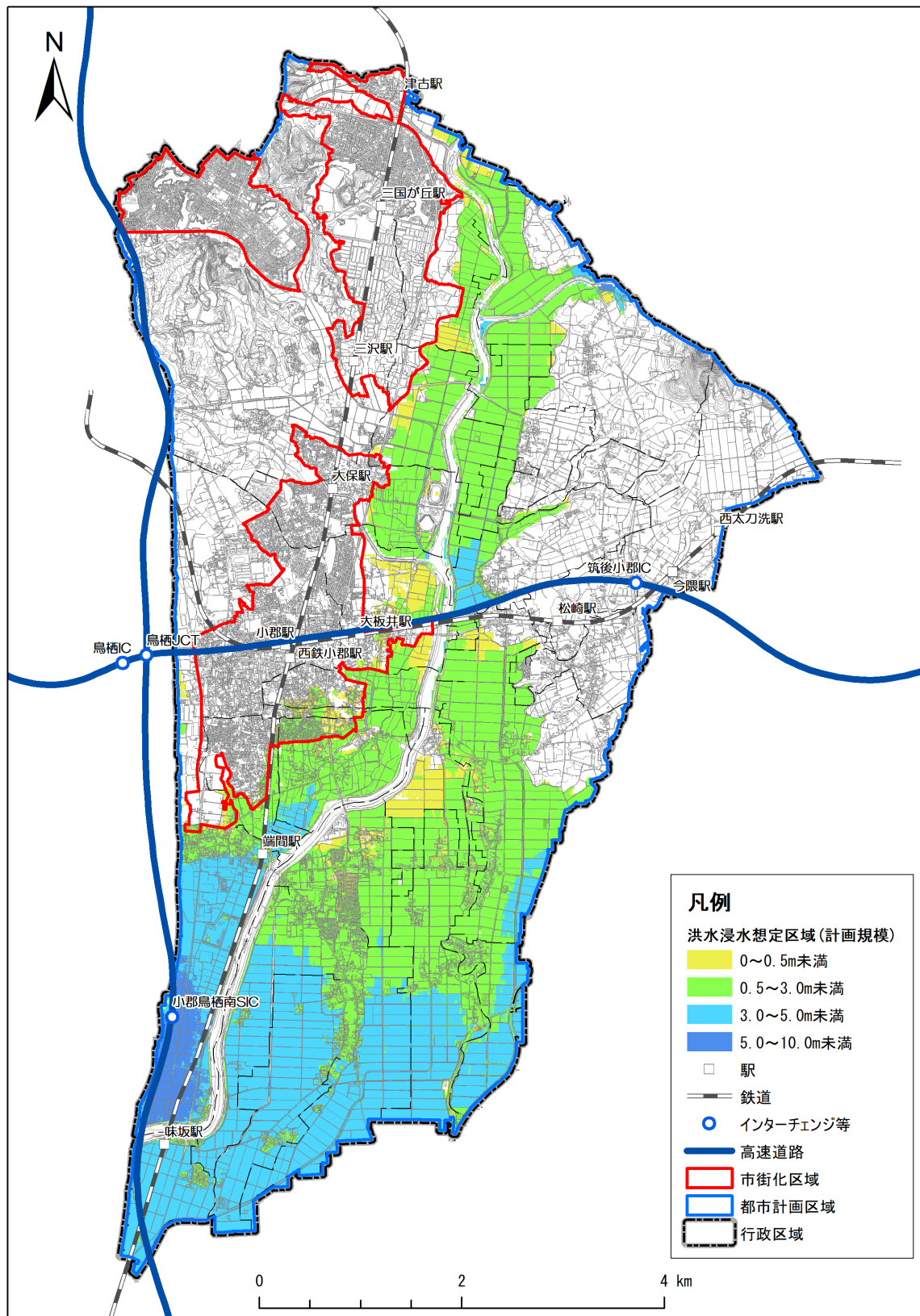


出典：福岡県資料 筑後川水系宝満川洪水浸水想定区域図（計画規模） 令和4年5月27日時点

2) 対象河川：筑後川・秋光川・小石原川・大刀洗川

洪水浸水想定区域（計画規模）は、本市を縦断する宝満川の周辺を中心に、本市の南に流れる筑後川に近い地区ほど浸水深が高くなっています。西鉄味坂駅の北側のエリアで、浸水深 5.0～10.0mが想定されています。

■洪水浸水想定区域（計画規模）



出典：筑後川河川事務所・福岡県・佐賀県資料 各河川浸水想定区域図（計画規模）を引用し作成 令和4年5月27日時点

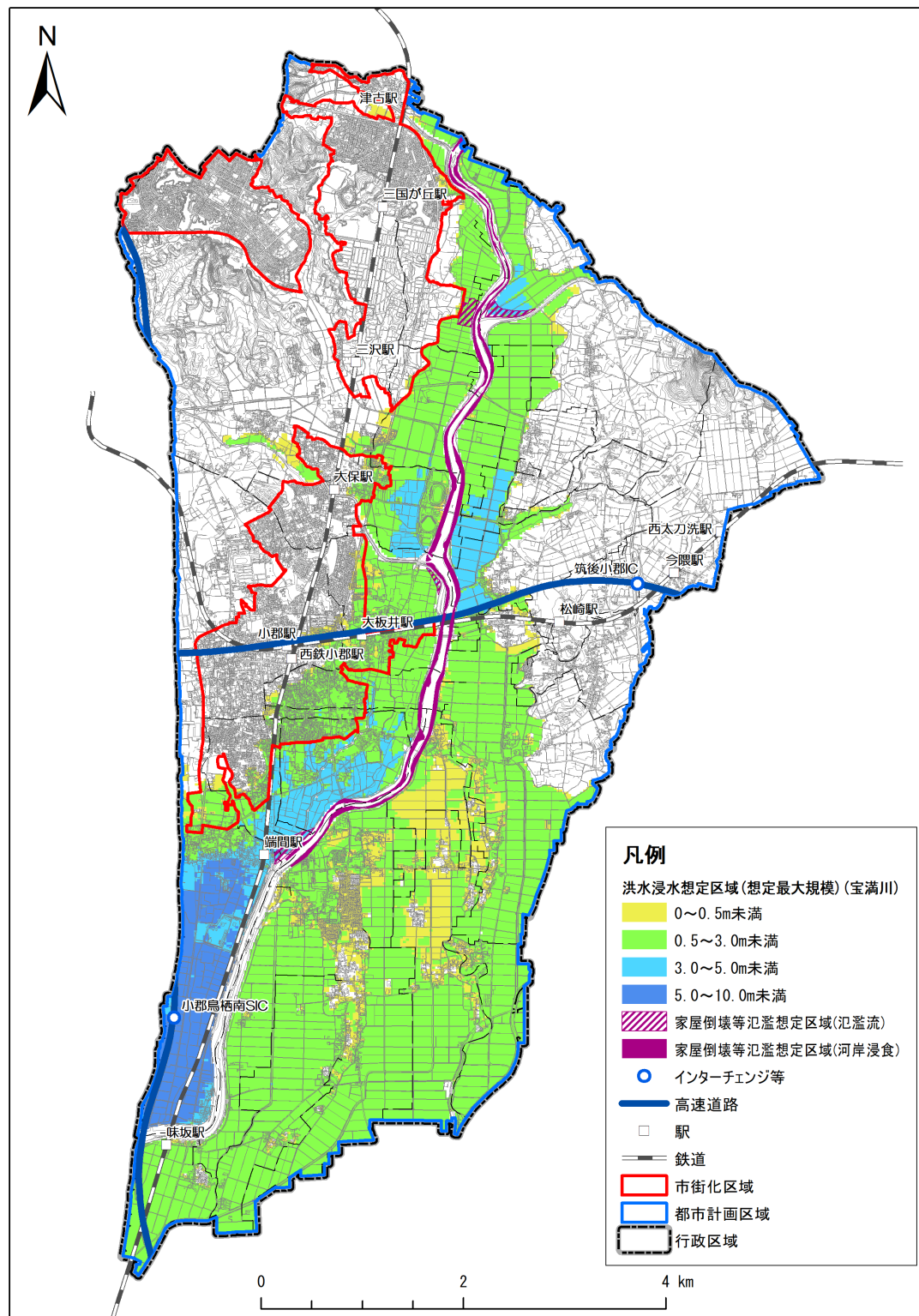
②洪水浸水想定区域（想定最大規模）

1）対象河川：宝満川

洪水浸水想定区域（想定最大規模）は、本市を縦断する宝満川の周辺など市域の半分以上の広範囲に想定されています。西鉄端間駅から西鉄味坂駅間のエリアで、浸水深5.0～10.0mに想定されています。

また、宝満川沿いには、河岸浸食や氾濫流による家屋倒壊等氾濫想定区域（宝満川の氾濫を基にした想定によるもの）が想定されています。

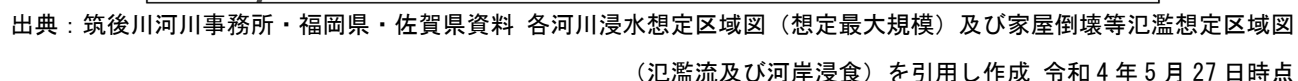
■洪水浸水想定区域（想定最大規模）及び家屋倒壊等氾濫想定区域



出典：福岡県資料 筑後川水系宝満川洪水浸水想定区域図（想定最大規模） 令和4年5月27日時点

洪水浸水想定区域（想定最大規模）は、本市を縦断する宝満川の周辺や本市の西に流れる秋光川周辺など市域の半分以上の広範囲に想定されていて、本市の南西側の地区ほど浸水深が大きくなっています。最も浸水深が大きいのは、西鉄端間駅の南西側のエリアで、浸水深 5.0～10.0mが想定されています。

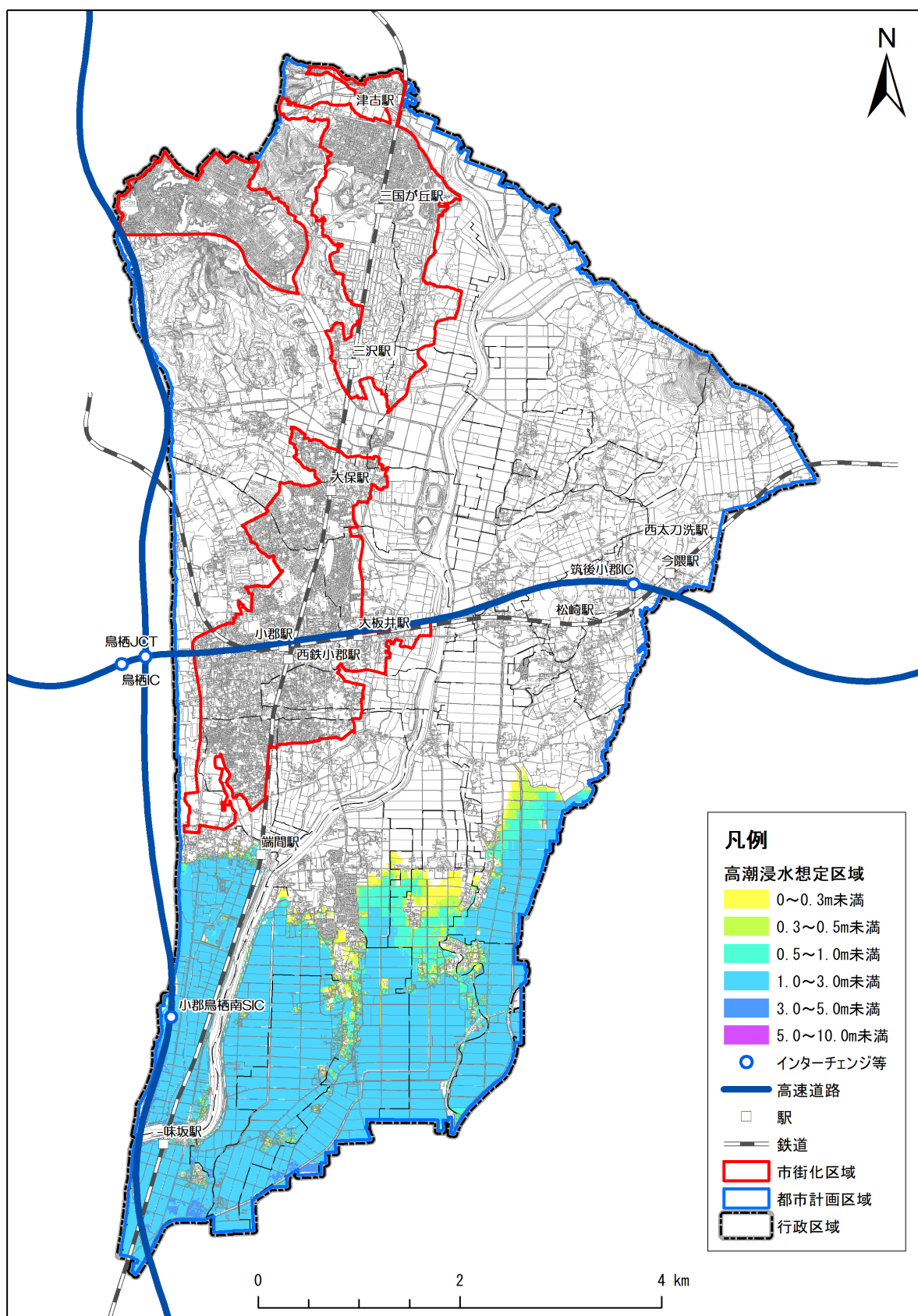
■洪水浸水想定区域（想定最大規模）及び家屋倒壊等氾濫想定区域



③高潮浸水想定区域

高潮浸水想定区域については、西鉄端間駅より南側に想定されていて、浸水深は、一部を除き、ほとんどの区域で、浸水深0.3～3.0mが想定されています。

■高潮浸水想定区域



出典：福岡県資料 有明海沿岸高潮浸水想定区域図 令和元年12月27日公表

土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域については、本市北部の希みが丘、美鈴が丘、三国が丘、津古、横隈、三沢の周囲が指定されています。

凡例

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- インターチェンジ等
- 高速道路
- 駅
- 鉄道
- 市街化区域
- 都市計画区域
- 行政区域

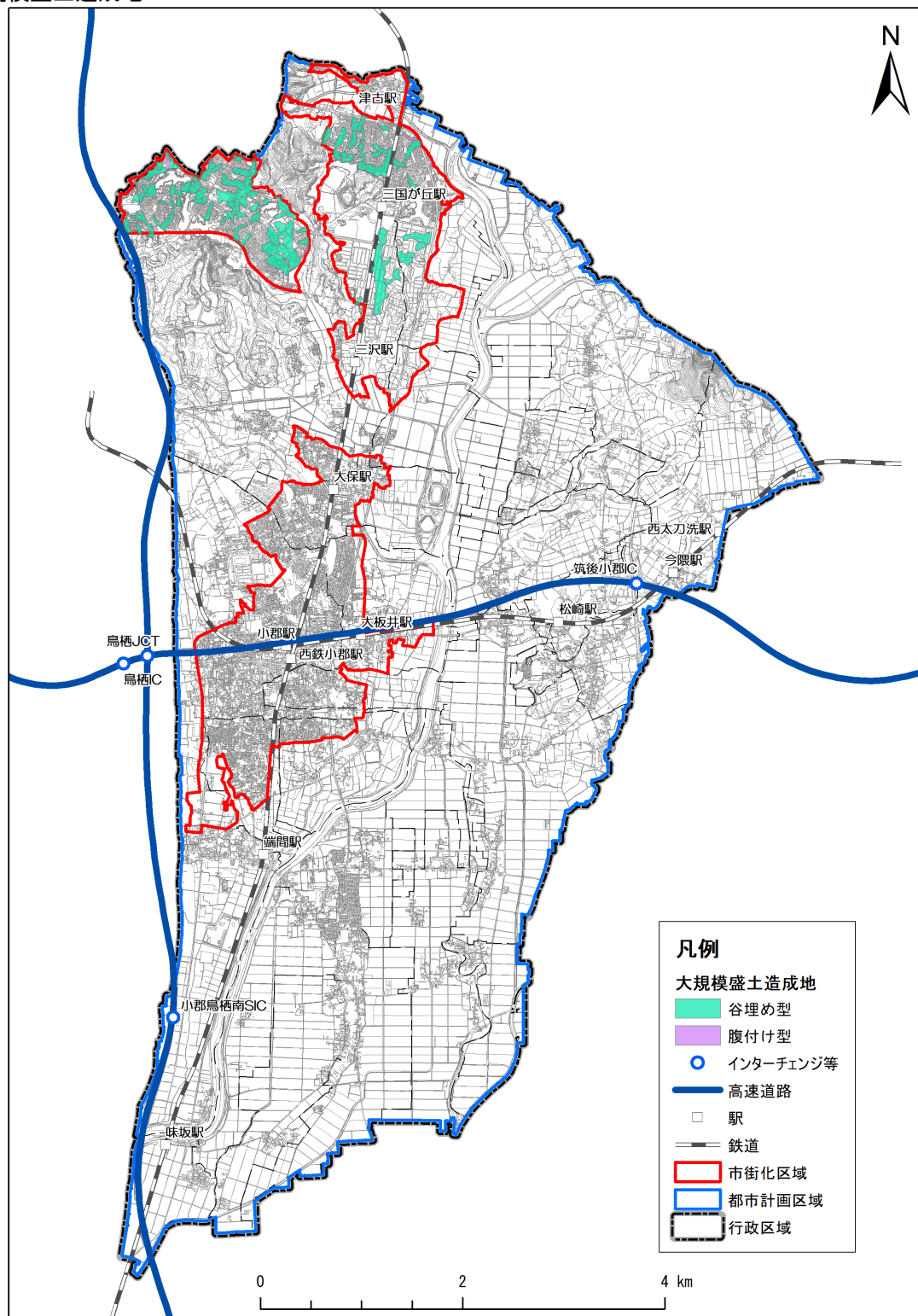
2-20

⑤大規模盛土造成地

本市北部の希みが丘、美鈴が丘、みくに野団地、三国が丘、古賀において、大規模盛土造成地が見られ、その周囲に土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域が指定されています。

盛土による大規模造成地については、本市北部の希みが丘、美鈴が丘、みくに野団地、三国が丘、古賀において、多数見られます。三国が丘北部の1箇所が腹付け型となっている以外は、全て谷埋め型の造成となっています。

■大規模盛土造成地



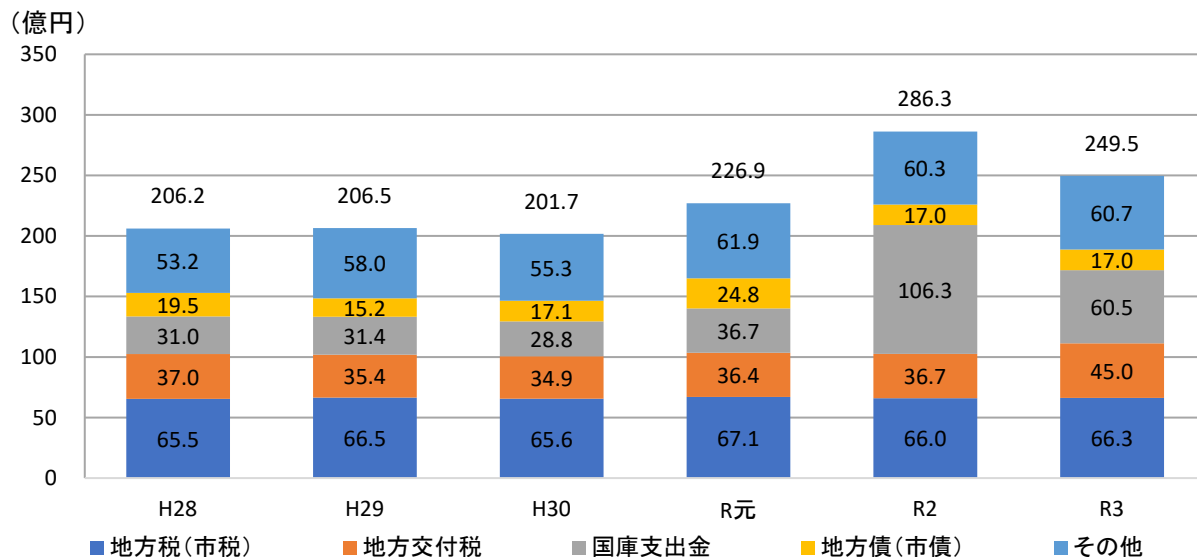
出典：福岡県資料 大規模盛土造成地マップ 平成30年8月作成

2-8 財政状況

(1) 歳入

本市の歳入総額は、2019（平成30）年以降大きく増加していて、2021（令和3）年は約249.5億円となっています。内訳をみると、地方税（市税）が最も多く全体の約3割を占めています。

■歳入の推移

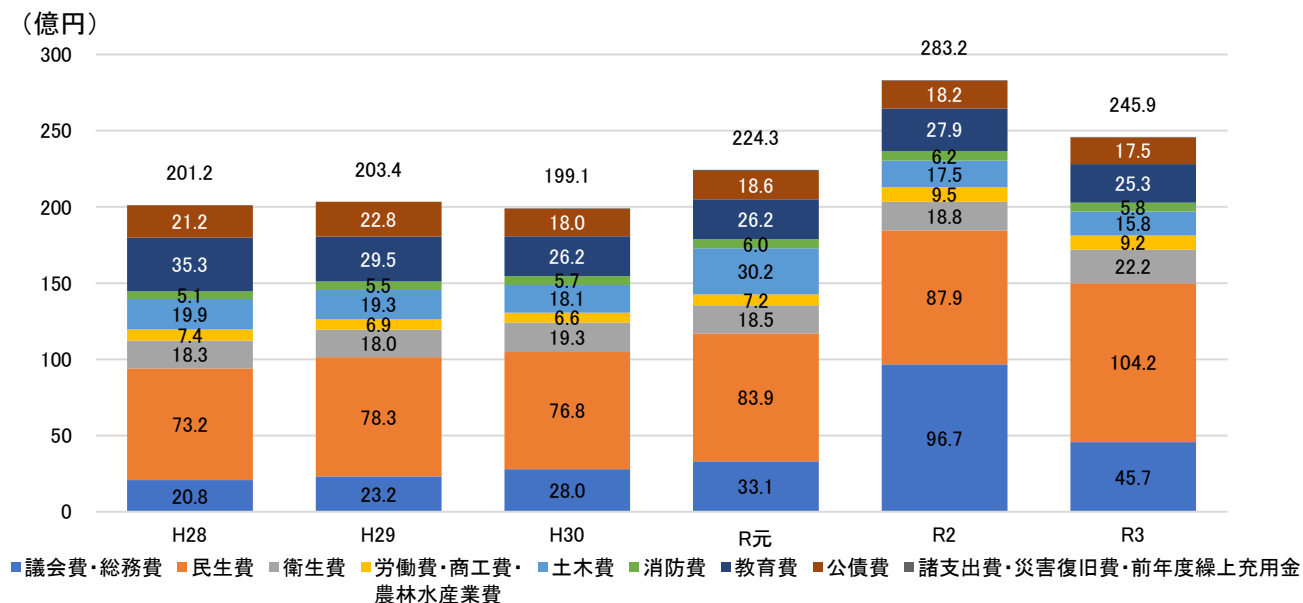


出典：小郡市財政状況資料集

(2) 歳出

本市の歳出総額は、2018（平成30）年以降増加傾向にあり、2021（令和3）年は約245.9億円となっています。目的別にみると、2020（令和2）年を除き、民生費が最も多くなっています。

■歳出の推移



出典：小郡市財政状況資料集

2-9 市民意向

(1) 市民アンケート調査結果

本都市計画マスタープランの策定にあたって、市内にお住まいの方（18 歳以上）から、年齢や居住地域を考慮したうえで、2,000 名を抽出し、将来のまちづくりに関する市民アンケートを実施しています。

調査にあたっては、調査票用紙の郵送による調査と、インターネットによる調査の2種類を実施し、有効回答数は合計 780 通、有効回答率は 39.0%となっています。

■調査概要

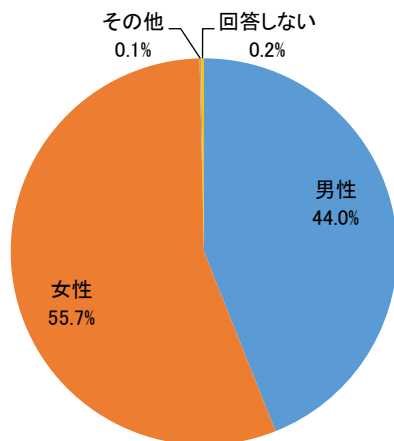
配布数	2,000 通		
回収数	紙媒体：675 票	WEB：105 票	計：780 票
有効回答数	紙媒体：675 票	WEB：105 票	計：780 票
有効回答率	39.0%		

(2) 調査結果

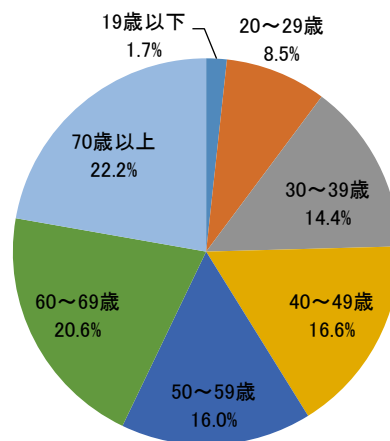
①回答者属性

性別は男性 44.0%、女性 55.7%で、年齢は 70 歳以上が 22.2%と最も多く、60 歳代とあわせて 4 割を超えています。居住地は小郡小校区 20.4%、三国小校区 19.5%、立石小校区 12.6%と続きます。居住期間は、4 割以上が 30 年以上と回答しています。

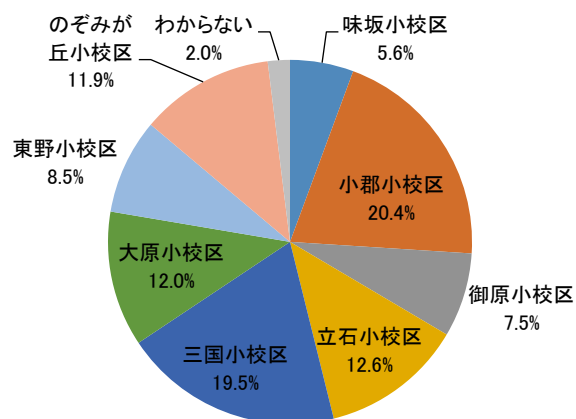
■性別



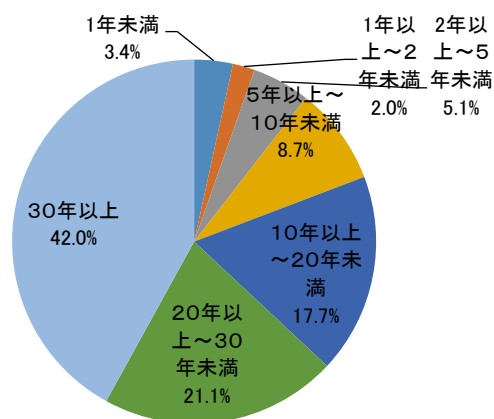
■年齢



■居住地

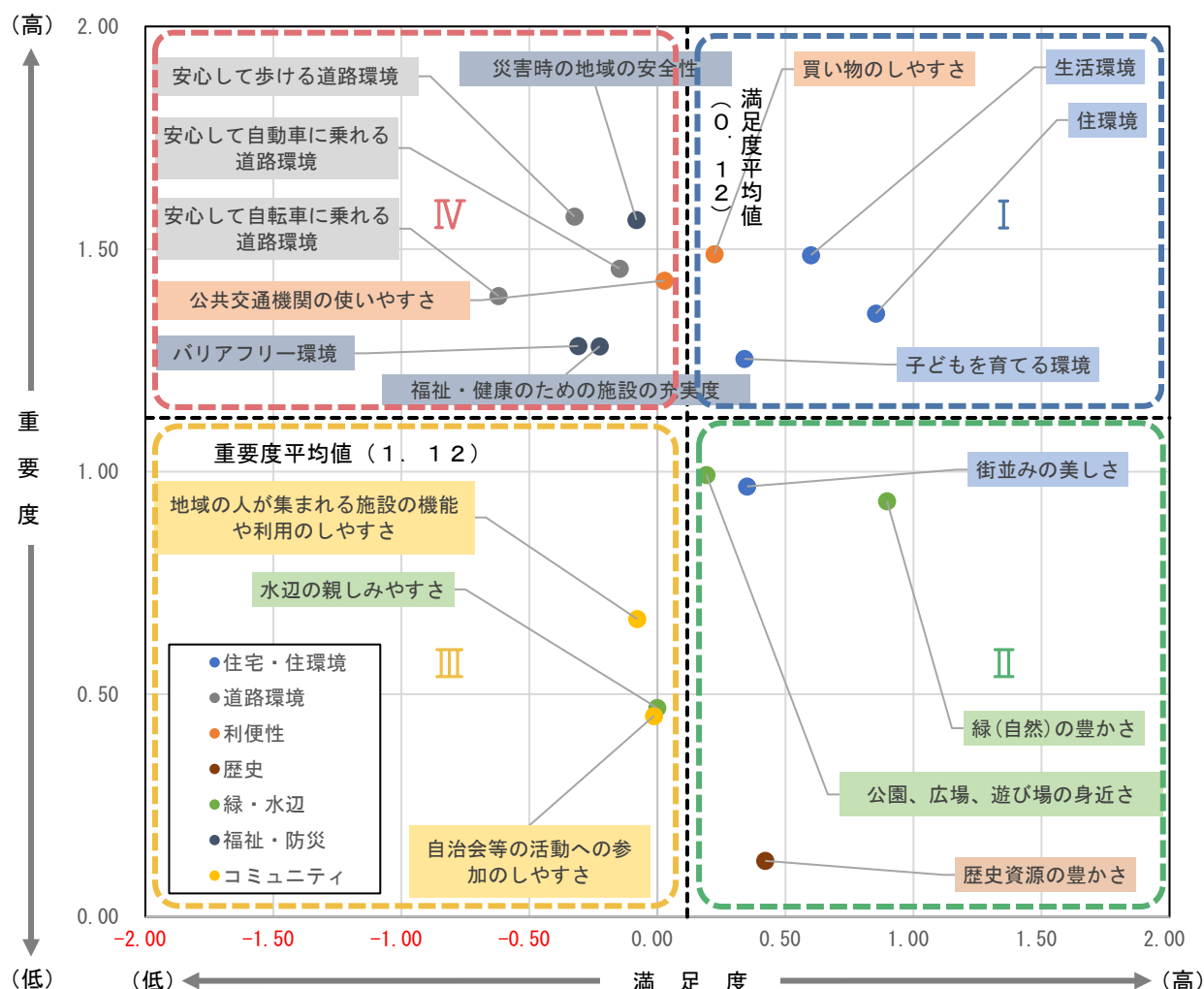


■居住期間



②生活環境について

「住宅・住環境」の項目は、ほとんどが満足度・重要度ともに高くなっています。「利便性」の項目は、満足度は平均的ですが、重要度が高くなっています。「水辺の親しみやすさ」を除く「緑・水辺」や「歴史」の項目は、満足度は、平均よりも高いですが、重要度は平均に比べて低くなっています。「道路環境」「福祉・防災」の項目は、いずれも満足度が低く、重要度が高くなっています。



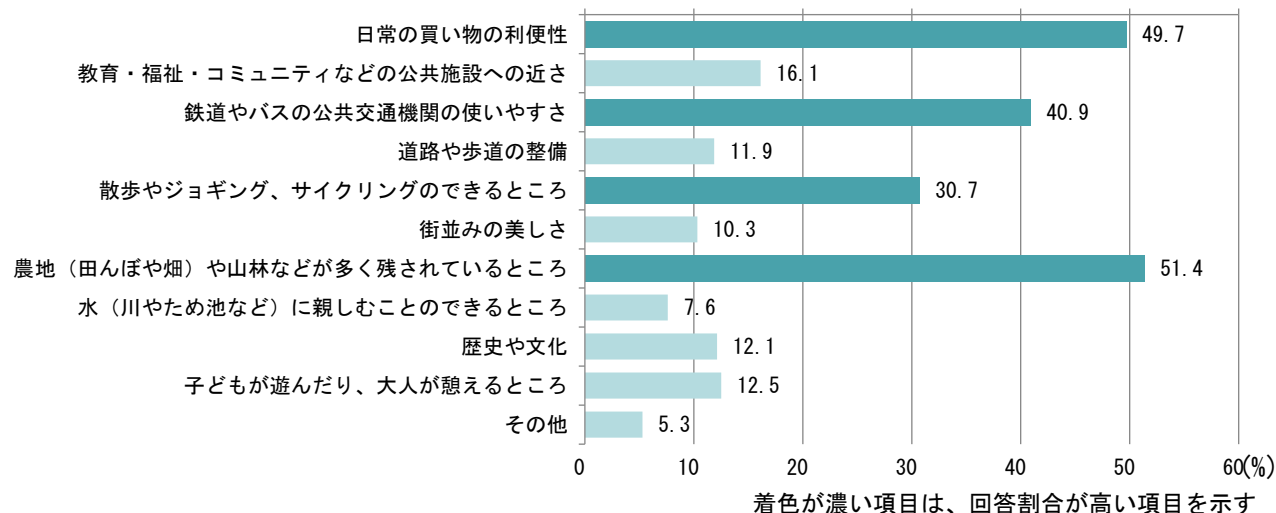
分類	評価	満足度	重要度
I	満足度・重要度ともに高く、今後とも取組みを維持する必要がある。	全市平均より高い	全市平均より高い
II	満足度は高いが重要度が低く、満足度を維持するため、取組みを維持する必要がある。	全市平均より高い	全市平均より低い
III	満足度が低いが重要度も低いため、取組みの優先順位は必ずしも高くない。	全市平均より低い	全市平均より低い
IV	重要度が高いが満足度が低いことから、重点的に改善に取り組む必要がある。	全市平均より低い	全市平均より高い

※満足度は、「満足」+2、「やや満足」+1、「普通」±0、「やや不満」-1、「不満」-2として加重平均して算出した指数
 ※重要度は、「重要」+2、「やや重要」+1、「普通」±0、「やや不要」-1、「不要」-2として加重平均して算出した指数

③小郡市の将来について

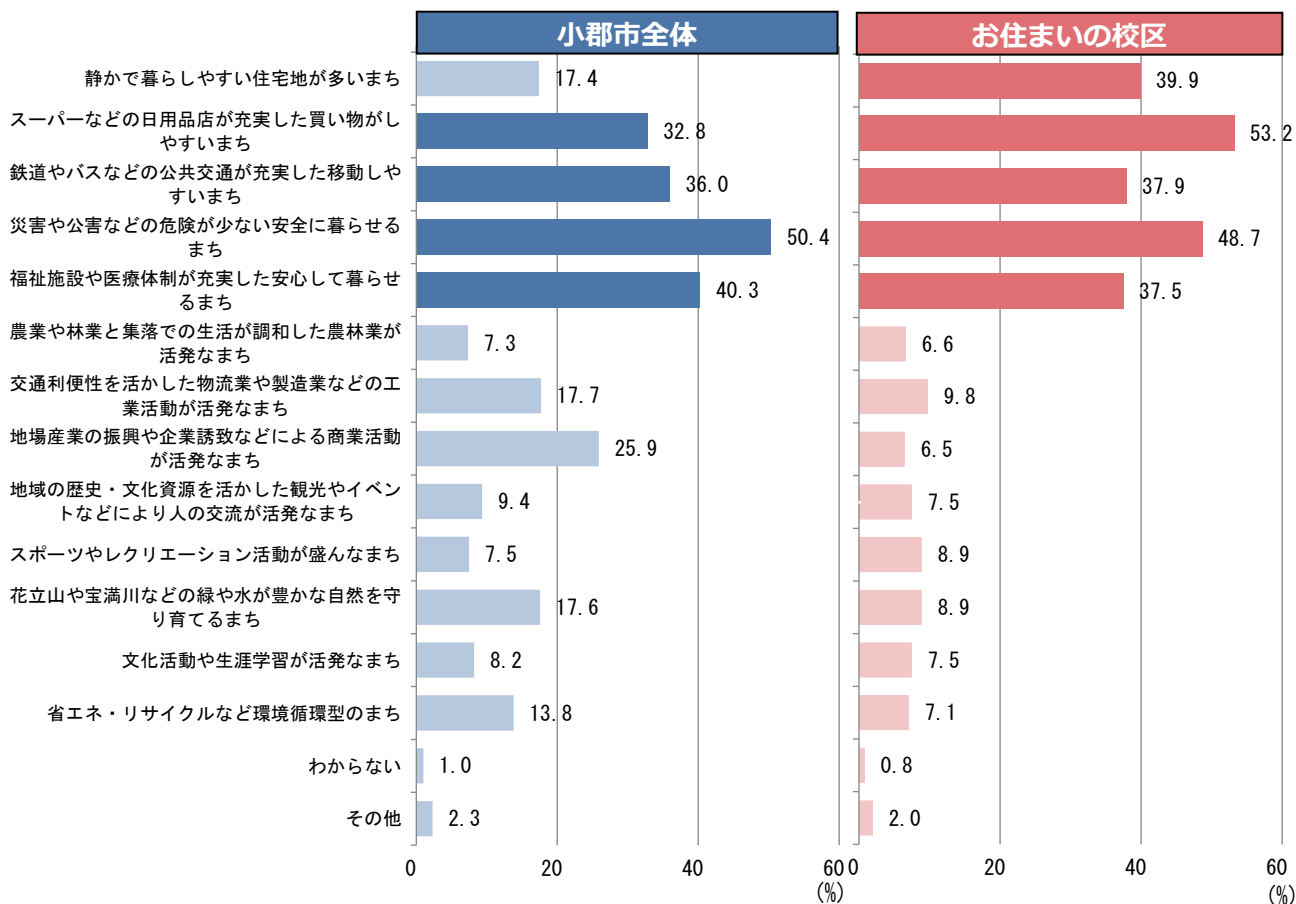
■小郡市の好きなところ

「農地や山林などが多く残されているところ」が最も高く、次いで「日常の買い物の利便性」「鉄道やバスの公共交通機関の使いやすさ」「散歩やジョギング、サイクリングのできる場所」が高くなっています。



■小郡市やお住まいの小学校区の将来への意向

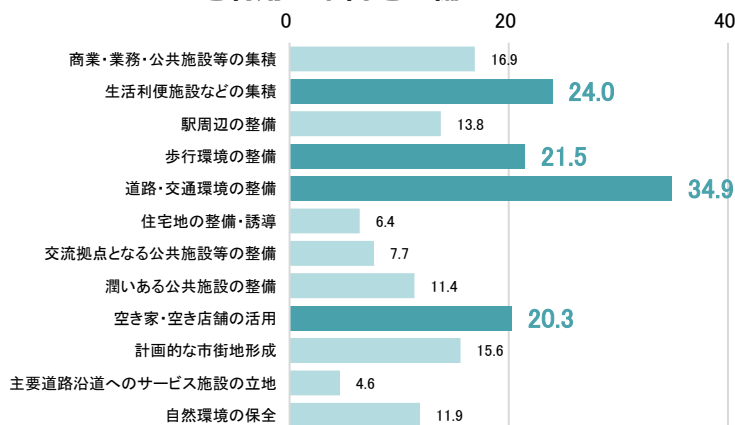
市全体、お住まいの校区ともに、「買い物がしやすいまち」「移動しやすいまち」「安全に暮らせるまち」「安心して暮らせるまち」が高くなっています。市全体で高い項目は、「商業活動が活発なまち」「工業活動が活発なまち」「自然を守り育てるまち」であり、お住まいの校区で高い項目は、市全体に加えて「静かで暮らしやすい住宅地が多いまち」となっています。



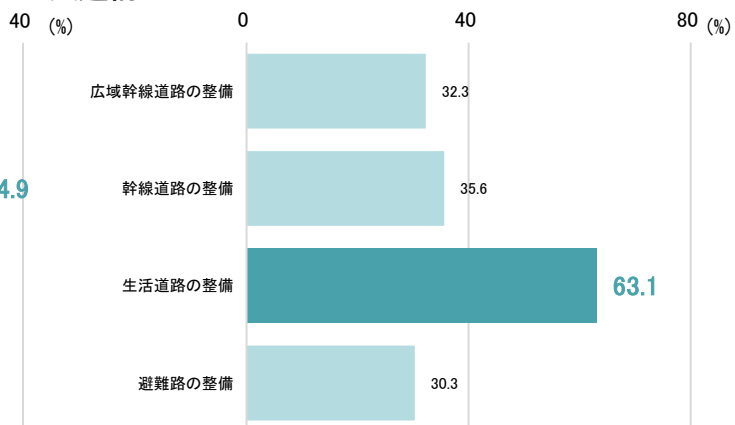
④分野別の重視する内容

項目	内容
土地利用・市街地整備	「道路・交通環境の整備」が最も高く、次いで「生活利便施設などの集積」「歩行環境の整備」「空き家・空き店舗の活用」の順に高くなっています。
交通網	「生活道路の整備」が突出して高く、次いで「幹線道路の整備」「広域幹線道路の整備」「避難路の整備」の順に高くなっています。
その他交通施設	「渋滞解消」が最も高く、「コミバス利便性の向上」「駐車場・駐輪場の整備」「市の玄関口の再整備」の順に高くなっています。
歩行者・自転車空間	「交通安全施設の整備」や「歩道の整備」が突出して高くなっています。
公園	「遊歩道・散策路の整備」が最も高く、次いで「適切な維持・管理」「身近に利用できる公園の整備」の順に高くなっています。
緑地	「河川の保全」が最も高く、次いで「まとまりのある緑を増やす」「樹林地の保全」の順に高くなっています。
都市景観・自然景観	「街路樹の整備や電柱の地中化」と「良好な自然景観や田園景観の保全」が突出して高くなっています。
防災	「大雨時の洪水などを防ぐ河川の整備」が突出して高くなっています。

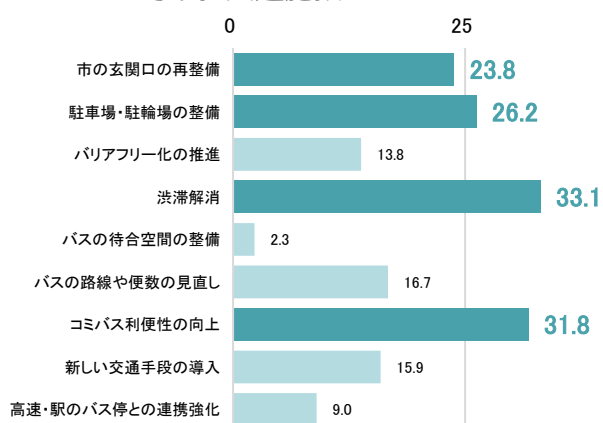
○土地利用・市街地整備



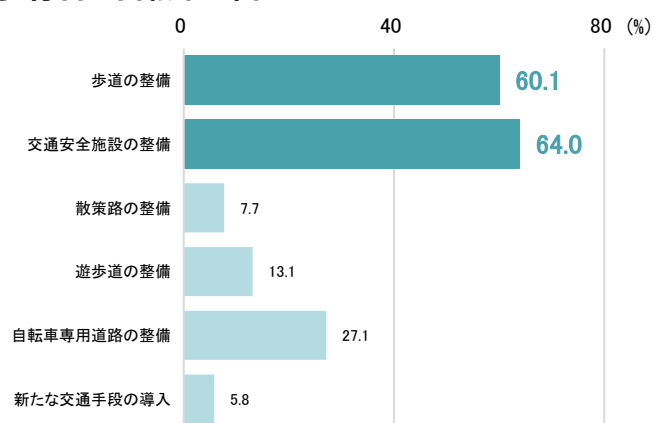
○交通網



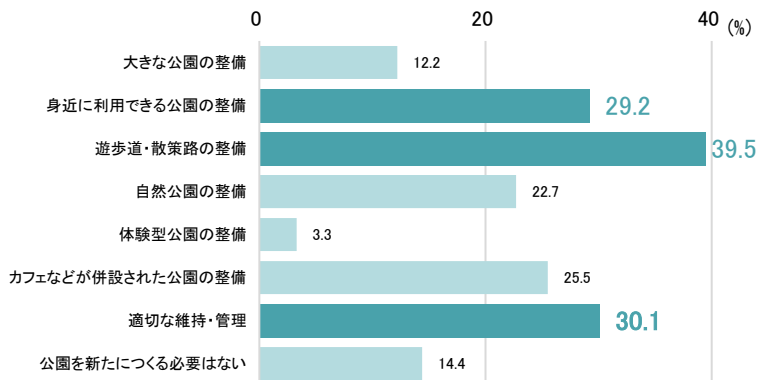
○その他交通施設



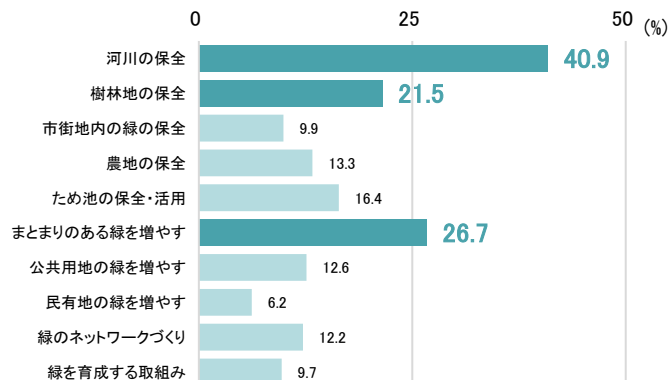
○歩行者・自転車空間



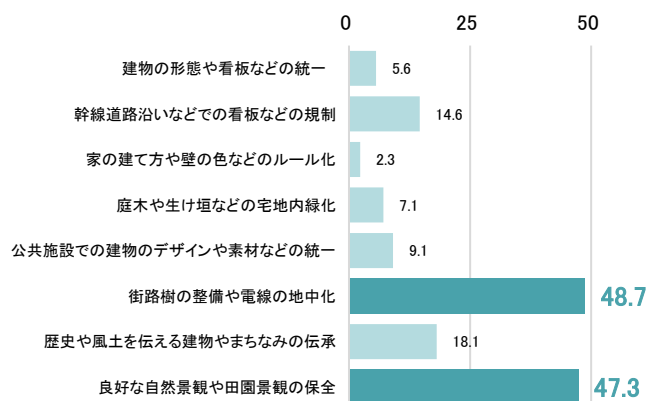
○公園



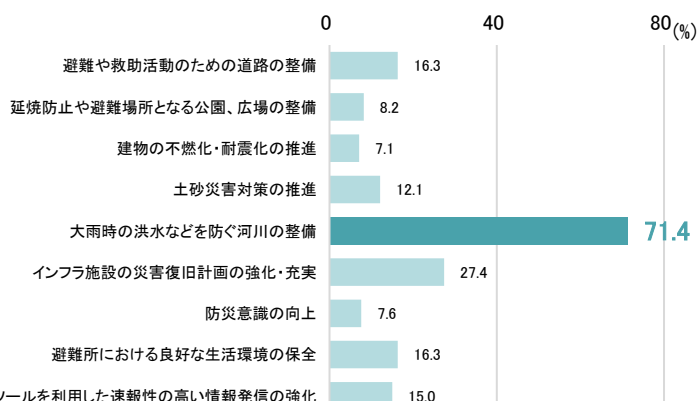
○緑地



○都市景観・自然景観



○防災



着色が濃い項目は、回答割合が高い項目を示す

(3) 小学校 5 年生及び保護者アンケート

① 調査概要

本都市計画マスタープランの策定にあたって、子育て世代及びその子どもの意向を把握するため、市内の小学校 5 年生の児童がいる世帯を対象として、将来のまちづくりに関するアンケート調査を実施しています。調査にあたっては、調査票用紙の郵送による回答と、インターネットによる回答の2種類の回答方法を準備し、実施しています。

■ 調査概要

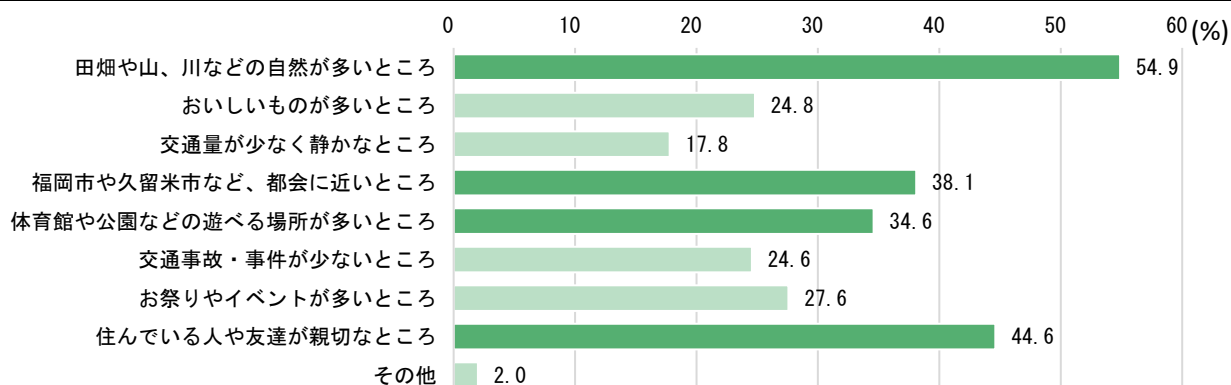
配布数	535 通		
回収数	紙媒体：352 票	WEB：59 票	計：411 票
有効回答数	紙媒体：352 票	WEB：59 票	計：411 票
有効回答率	76.8%		

② 調査結果

1) 小学生アンケート調査結果

■ 小都市の良いと感じるところ

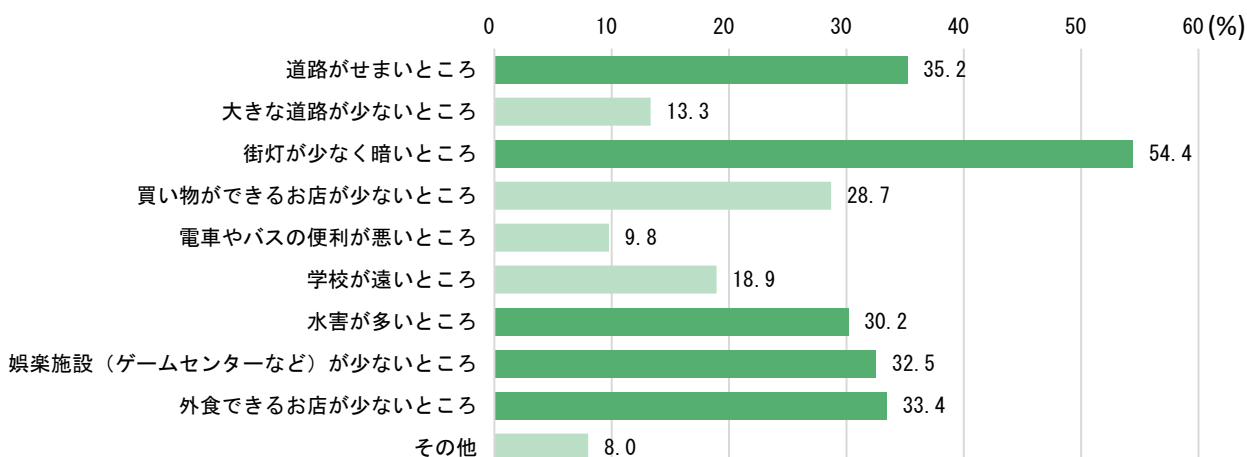
「田畑や山、川などの自然が多いところ」が最も高く、次いで「住んでいる人や友達が親切なところ」「福岡市や久留米市など、都会に近いところ」「体育館や公園などの遊べる場所が多いところ」の順に高くなっています。



着色が濃い項目は、回答割合が高い項目を示す

■ 小都市の良くないと感じるところ

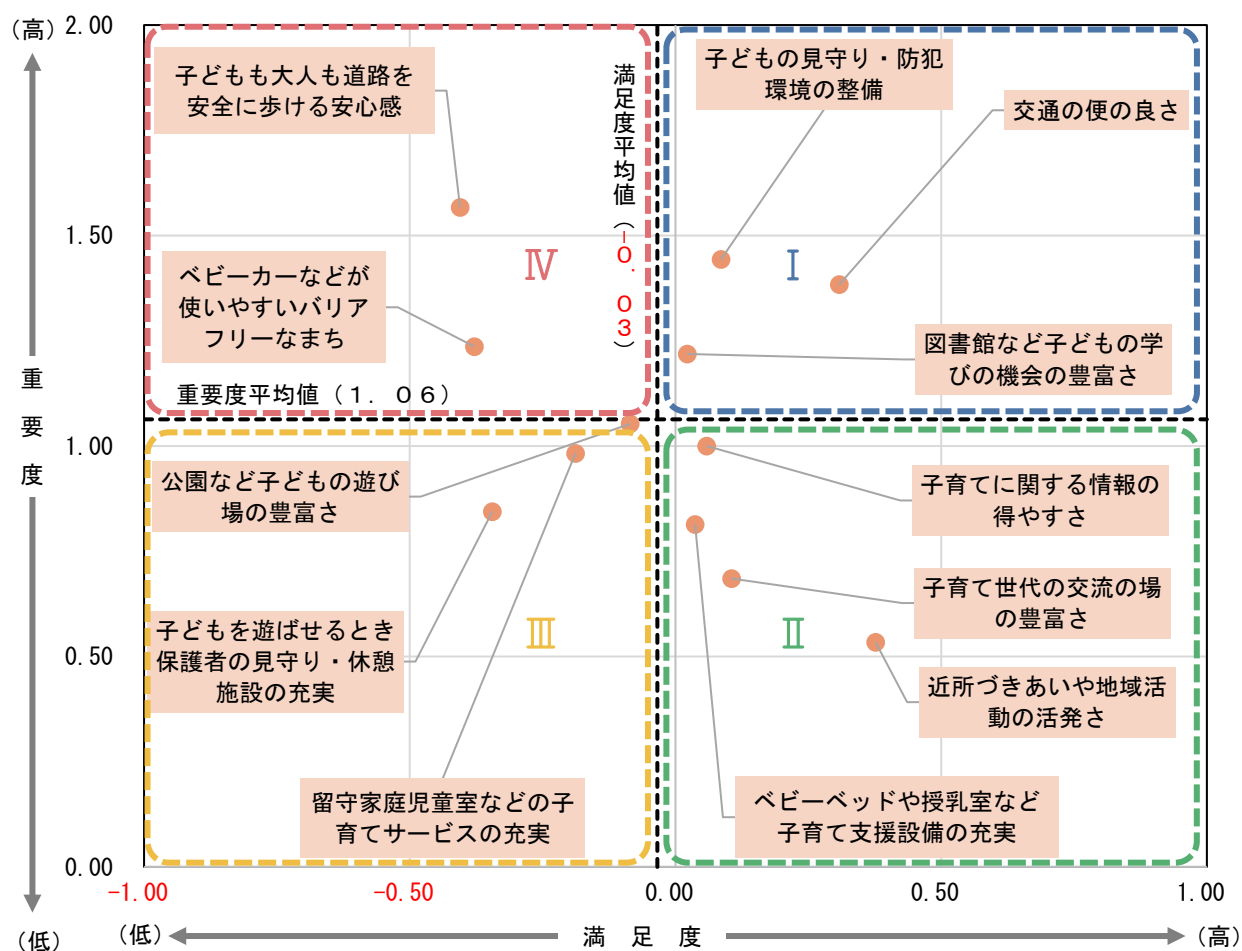
「街灯が少なく暗いところ」が突出して高くなっていて、次いで、「道路がせまいところ」「外食できるお店が少ないところ」「娯楽施設が少ないところ」「水害が多いところ」の順に高くなっています。



2) 保護者アンケート調査結果

■子育て環境の満足度・重要度

「子どもの見守り・防犯環境の整備」「交通の便の良さ」は、満足度・重要度ともに高い項目になっていて、「子どもも大人も道路を安全に歩ける安心感」「ベビーカーなどが使いやすいバリアフリーなまち」は、満足度は低く、重要度が高い項目になっています。



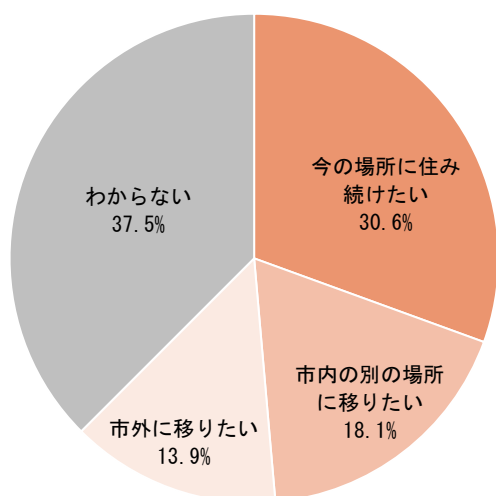
分類	評価	満足度	重要度
I	満足度・重要度ともに高く、今後とも取組みを維持する必要がある。	全市平均より高い	全市平均より高い
II	満足度は高いが重要度が低く、満足度を維持するため、取組みを維持する必要がある。	全市平均より高い	全市平均より低い
III	満足度が低いが重要度も低いから、取組みの優先順位は必ずしも高くない。	全市平均より低い	全市平均より低い
IV	重要度が高いが満足度が低いことから、重点的に改善に取り組む必要がある。	全市平均より低い	全市平均より高い

※満足度は、「満足」+2、「やや満足」+1、「普通」±0、「やや不満」-1、「不満」-2として加重平均して算出した指数

※重要度は、「重要」+2、「やや重要」+1、「普通」±0、「やや不要」-1、「不要」-2として加重平均して算出した指数

■ 小都市への居住継続意向

「今の場所に住み続けたい」と「市内の別の場所に移りたい」といった市内での居住を望む方が約半数であるが、「市外に移りたい」も1割強となっています。

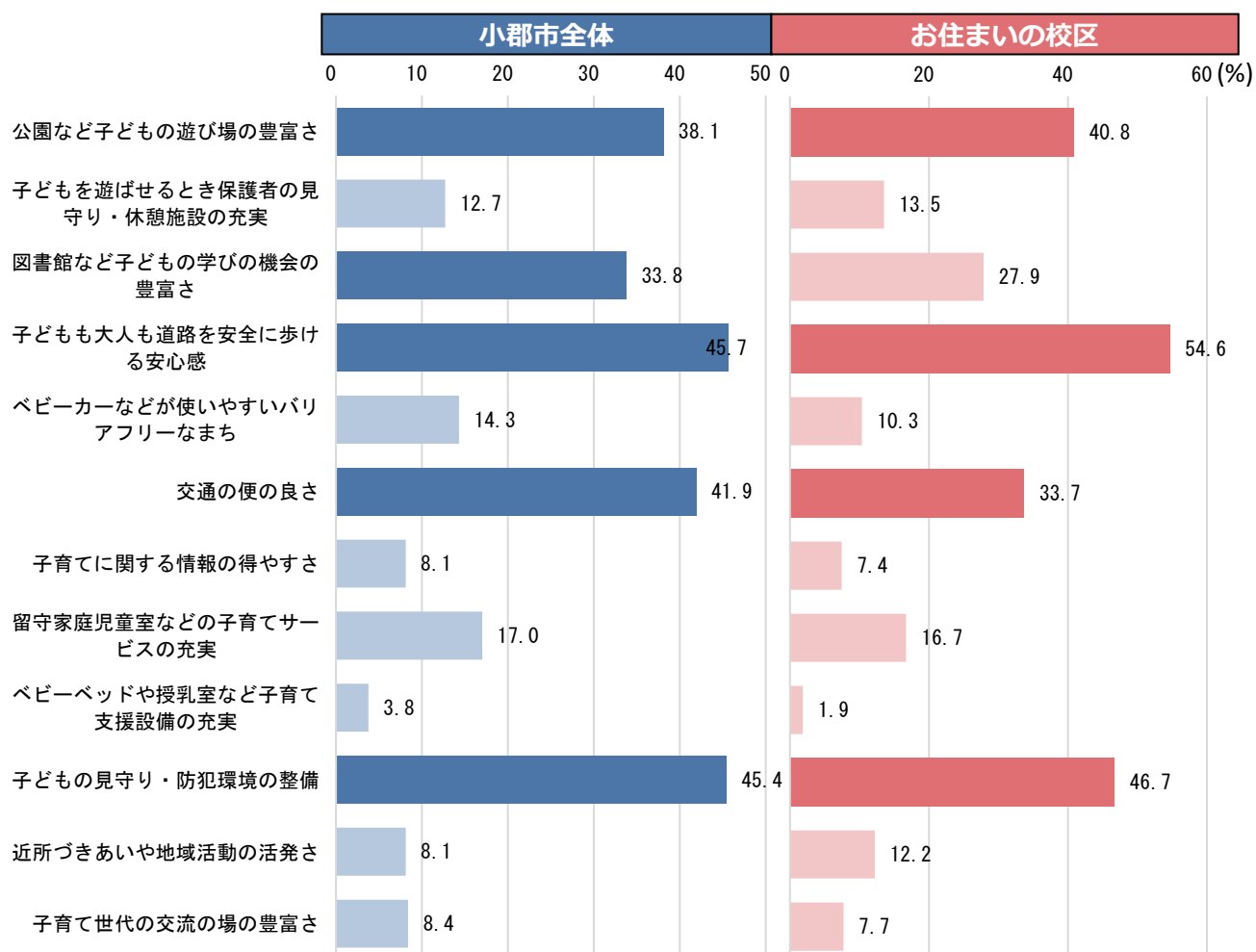


【移転先の希望地】

- 小都市内：三国が丘駅の近く(1)
- 福岡県内：福岡市(10)/久留米市(2)/糸島市(2)/大刀洗町(1)/福津市(1)/筑紫野市(1)/遠賀郡芦屋町(1)/飯塚市(1)
- 福岡県外：鳥栖市(1)/基山町(1)/五島(長崎)(1)/大阪府(1)/他県(1)/子育てしやすいところ(1)

■ 今後のまちづくりのために特に大切だと思うもの

市全体、お住まいの校区ともに、「子どもも大人も道路を安全に歩ける安心感」が最も高く、次いで「子どもの見守り・防犯環境の整備」となっています。また、「公園など子どもの遊び場の豊富さ」「交通の便の良さ」も、市全体、お住まいの校区ともに高くなっているほか、市全体では、「図書館など子どもの学びの機会の豊富さ」が高くなっています。



着色が濃い項目は、回答割合が高い項目を示す